



325  
361



始



14



教會

の建設

大正  
4. 7. 5  
内交

## はしがき

教會の組織は基督教の特色なり。教會生活は基督者が信を養ひ、徳を建て、其の勢力を世に擴張する最も有効なる機關なり。近年プロテスタント教會に於て注意せらるゝ問題は、基督に關する教理に次ぎて、教會に關する教理の再建なり。由來プロテスタント教會は羅馬加特力教會の主義に反抗して、教會よりも基督及び信仰を高調したり。随つて此の見地より現在の教會組織を批評し、甚だしきに至つては之を輕視するのみならず、無視せんとするものすら起りぬ。また之に忠實なるものと雖も、尙ほ教會今日の儘にて果して其の使命を全うするを得べきかとの不安を懷くものなきにあらず。此等の現象は確かに非加特力教會の人々の間にも、教會とは何ぞや、其の位置及び任務は何ぞ

はしがき

一

此書は、日本基督教興文協會より發行するものなり。而して本協會の事業は下文に定むる如し。

『日本基督教興文協會の事業は、日本の基督教信徒及び未だ基督教を信ぜざる人々の需要に適したる基督教文學の著作及び弘布にあり。本協會は日本に在る基督教ミッシヨンの同盟を代表せるが故に公同的精神を以て立てるものなり。されば本協會の會員及び維持者は必ずしも本協會に於て發行せる書籍に現はれたるすべての意見に同意せるものと認むべからず』。

や、如何に之を再建し、また如何に之を有効ならしむべきかと云へる如き問題を攻究するの必要を感じつゝあるを示すものにあらずや。此書は實に此の問題に觸れ、近代社會に適應せる解決を與へんと試みたるものなり。此の問題は日本の基督教會に於ても、適切なる問題なり。此書又必ず或る光明を與ふるものあるべきを疑はず。

著者は現に米國紐育市ブロードウェイ・タバアナクルの牧師にして、米國第一流の説教者たり。千八百六十年八月廿九日オハヨ州ケムブリッジに生れ、ワシントン大學、ボストン大學等に學び、千八百八十七年會衆教會の牧師として接手禮を領し、紐育市セントラル・チャルチの牧師となり、千八百九十八年以來現在の位置に在り。著書頗る多く、『成長しつゝある説教者への靜かなる暗示』(一八九九)、『熱心なる信徒との靜話』(一八九九)、『教理と行爲』(一九〇〇)、『根本的の事物』(一九〇〇)、『預言者としての教役者』(一九〇〇)、『信仰と生活』(同)、『世界のクリスマス・ツリー』(一九〇〇)、『舊年と新年』(一九〇〇)、『新十字軍』(一九〇〇)、『耶蘇の品性』(一九〇〇)、『我が父の務』(同上)、『クリスマス・マスの建設者』(一九〇〇)等其の重なるものなり。

而して本書は千九百十年四月より五月に亘りエール大學神學校に於けるライマン・ビイチャア講演にて述べたるものにて、同年九月上梓して世に公けにし、翌月忽ち再版に附せられ、今日まで既に四版を重ねたり。是れ一種の教會學なり、また説教學なり。教會及び講壇多年の經驗より來れるものなれば、立論觀察ともに剴切にして、能く時弊を穿ち、人をして志を勵まし、事に當らしむるものあり。是れ日本基督教興文協會が此書を我が基督教會に薦むる所以なり。

大正四年五月

譯

者

## 目次

一	新約書にある教會建設の思想	一頁
二	同胞主義の建設	五一
三	個性の建設	九九
四	氣分及び氣質の建設	一四八
五	王位の建設	一九七
六	聖なる公同教會	二四五
七	計畫を立つること	二九八
八	建設者の養成	三四七

# 教會の建設

## 新約書にある教會建設の思想



余は此講演の題目を撰ぶに際し、此講座の主眼とする最高の興味、即ち説教の事業を看過せず。余は説教術に無上の興味を有せらるゝ人々に對して語りつゝあることを忘れず。然れども余は諸君に望むに、基督教會に由りて此問題に接近せんことを以てす。若し説教てふ問題は新エルサレムの如く四方面にして、各方面に理想的多數の門あり、講演者は其一門を通じて主要なる問題の中心に進み得るものにあらずんば、已に數多の著名なる教師等が同問題に關して説けるのち、今日

新約書にある教會建設の思想

更に忠言若くは教訓を加へんとするは實に不遜の責を免るべからず。之に達する傳承的方法は、基督教の使命を宣傳する爲めに建てられたる制度即ち講壇を通じて進む事なりき。而して此方法に従へば其論究すべき最上の問題は、使命、其本旨、その説述の方法、若しくは其の宣傳者、其の人格と品性、其の講壇上の辯舌と身振、其の修辭上の習慣及び文體等なるべし。此方法は直接にして且つ明白なるものなり、固より大なる効果なきにあらざるべし。然れども凡ての方法の如く、之に制限あり、且つ或種の危険を伴へり。若し深く意を用ひて之を防ぐにあらずんば、恐らくは過誤に陥るに至るべし。人往々説教の事業を極めて狭く考へ、主として唯講壇上の一個人に關することなりと想像し易し。説教の事業を討究するに當つて、説教者自身が其考究の第一の目的物たり、説教の成功は重に彼の心靈上の稟質と其精神上の造詣如何

によるものたり。教役者の教育に於ても注意を此訓練の一點に集め、説教者をして講壇上の辯論を快く述ぶるに最も適するものたらしむるにありとす。

然れども詳に之を察すれば、説教は管に一人のみならず、人々の社會をも包含する者なるを見るべし。何れの説教者も己の爲に生き又己の爲に死するものなし。彼は有機體のうち、働く一の機關なり。其生命は他の生命と絶つべからざる活ける關係を保つ。彼の稟質と造詣とは、説教の事業の一要素たるに過ぎず。基督教社會の稟質と造詣とは更に大切な要素なり。説教は孤立せる一個人の聲にあらずして、イエスの名に入れて、バプテスマを授けられたる人々の團體の發言なり。説教は單に説教者より發するものにあらずして、教會より出づるものなり。説教者は其受けしものを返へすなり。彼は自らを養ふ

能はず。彼は其境遇、即ち基督の家族によりて育てらる。彼は自ら其形を造る能はず。彼は信徒の團體によりて培養せらるゝなり。彼は孤立して成長する能はず。彼は重に基督教徒の創造する雰圍氣と氣候に依頼する植物なり。説教者の事業を普く研究するに當りて、決して教會を無視するを得ず、又之を背後に退くるは不利なり。傳承的方法は説教者を通じて教會に達せんとするにありしが、余輩は此講演に於て、教會を通じて説教者に達せんとするなり。説教を通じて會衆に到らんとするは月並の方法たり。會衆を通じて説教に到達するの便利なるを證せん。教會は講壇よりも古く、會衆は説教者よりも前に存せり。教會を創立せるは講壇にあらず、講壇を造りしは教會なり。基督教社會に生氣を與へて之を保つものは説教者にあらず、反つて説教者に生氣を與へて保育するものは基督教社會なり。是を以て説教に

關して熱心なる研究を爲すに當つては、教會即ち精神的社會より始むるを以て至當とす。説教者は最初之より出で來り、又其説教は之によりて保育せられ、生氣を保つなり。

此考究の方法は現今適切なるのみならず、又最も有効なるべしと思はるゝ特別の理由あり。其一は教會が多く、の場所に於て陰影のうちに投せられたるに由る。倫理的及び慈善的事業に従事する組織の數を増加せるが爲めに、基督教會は以前の如く花々しく人目を惹かざるに至れり。宗教的及半宗教的團體の多衆に圍繞せられ、半ば是等の爲めに蔽はれて、曾ては燦爛として人目を眩せしめたる光輝も其多分を消失するに至れり。加之、新しき世界觀出でて萬事は其批判の下に置かる。凡て人類の基礎的の制度——家族、國家、教會——は坵塙のうちに投せられ、熱火を以て試験せられつゝあり。或者は叫んで曰く、從來世



に存する家族制度は禍と詛との湧き出る源泉なり。更に善良なる制度を以て之に代へざるべからず。世人の知るが如き國家の制度は不正と壓抑との機械なり、正に朽廢せる制度の堆積せるうちに拋棄して可なりと。斯る急進的時代に於て、基督の教會が敵意ある眼光を以て穿鑿せられ、多くの人々に依りて、其功用を殘存するに巧なる奇態の有機物と同一視せらるゝも怪しむにたらず。多數の識者には、基督教會は最早何等の意義を有せざるなり。彼等の或る者は全く之を無視し、或者は衰へ行く迷信の殘存なりとして嘲笑し、或者は人文進歩の障害物として之を呪ふ。或人々は尙教會の存在を認む、然れども、吁、其教義は凡て古び、其方法は時代に後れ、其勢力は衰亡し、現代の状態を以て之を永久に傳へんと蓋し疑問なりとなす。嘲笑者の座席には群衆山の如く、哀痛者の座するところ亦同じく然り。其席には講壇の衰微と教

會の頹廢とを絶えず念頭に哀むもの座せり。彼等は過ぎにし前代を顧みて講壇上の俊傑を憶ひ、今自己の周圍を見渡せば唯講壇上の侏儒を觀るのみ。教會會て偉大なる勢力を有したりき、然も今は然らず。或は新聞に「講壇の頹廢を論ずるあり、或は小説に於て基督教徒が價値ある事業を成さん爲には教會と絶縁するを可とする所以を示すあり、或は雄辯を揮ひて説教者を罵倒し教會員を諷刺する講演をなすものあり。現代に於ける最も猛烈にして且つ眞實らしき批評は、イエスの人格に加ふるものにあらず、又彼の倫理的教訓に關するものにあらずして、實に彼の名を戴く制度に向ひて加へらるゝなり。説教に志ある者は教會に關して深く考ふべき好時期にありと云ふべきなり。

多くの説教者は之に關して考ふること少く、或者は之を考ふるも其當を失せり。教會なる語は多くの講壇に於て禁止せられ、もはや教會

に關して説くことをせざる宗教家少からず。彼等の好むところの演題は神の國なり。米國の勢力ある一神學者は神學上の價値ある著書中故意に「教會なる語を捨て、基督教國民なる語を代用せり。英國の説教者にして其名聲諸教會に響き已に死せるも猶活けるが如き某氏は、其最も評判よき書中に曰く、パウロが教會に關して述ぶるところ多く、神の國に關して説くところ少きは悲しむべきなり。何となれば教會の特産物は僧侶にして、神の國の特産物は慈善家にあればなりと。獨逸の有力なる一神學者は吾人に告ぐるに、教會は耶蘇の宗教の骨髄たるものにあらざることを以てせり。彼曰く、基督教は教義、組織、儀式を要せず、基督教は正しく解せば心情の孝順なる状態に外ならずと。勢力ある地位に立つ人物の語るところ斯の如し、下層にある輩が衰へたる敬意を以て教會に對し減じたる熱心を以て之を説くは敢て怪し

むに足らざるなり。今や教會は多くの基督教徒に取りて辨明の標的となり、愛慕して之が爲めに犠牲とならんとするが如き制度にあらざるものとなれり。基督教信條の教理のうち、今日の青年を迷はせ易きもの、基督教會に關する教理に如くものあらざるなり。

教會に關する懷疑の廣く傳はりたる影響は益著明になれり。歐米に於て、神學校に入學すもの、減少することは、心を悩ます討議の問題にして、之れが爲めに多くの解釋は提出せられたり。而も其根本原因の一は一般に見落されたり。青年にして教役者たらんと志望するもの、減少するは、多くは教壇が衰微の状態にあり、教役者は最早勢力の人にあらず、教會は陳腐となれり、基督信徒は其一生を社會改善の事業に致すべき他の良途の存するありとの感覺の遍きが故なり。現代は過ぎにし凡ての時代よりも更に物質的なる劣等のものにあらず。今

日の青年は前日の青年の如く高尚なる理想を有せり。彼等の感激するところ又大度にして高貴なり。彼等の基督を信するは深くして且固し。彼等の人類に奉仕せんとする志望は決して人後に落つるものにあらず。而して人の實際的なること未だ曾て今日の如きはあらざるなり。彼等は價值ある何事かを爲すべき機會を獲んことを望む。彼等は其一生を最も見るに足るものとなさんと欲す、而も多くは教役者たることを躊躇するなり。其理由は他ならず、彼等は基督信徒——其基督教大學校長たると、基督教大學教授たると、基督信者たる記者たると、基督信者なる實業家たるとを問はず——より、教壇の勢力は衰退しつつあり、其に據りて世に盡すは他の方面に於てするよりも遙かに劣れるものなりと聞くが故なり。近時青年が多く其背を教會事業にそむくるは、日頃其識見判断を尊信する先輩の視て以て已に貧血病に

陥り壞敗に近けりとする制度に對し、其補翼すべく全身を献ずる事を快しとせざるが爲なり。「如何にして教職候補者の數を増加するを得べきか」との問題を發するに至れるは、畢竟神聖にして權力あり且必要缺くべからざる制度たりし神の教會が今や其聲望を損せるが故なり。教會の意義を解せざるが爲めに教會事業より轉じ去るものあるを見るは悲むべきなり、されど教會に對し誤れる態度を以て教會事業に従ふを見るは悲痛の極なり。青年教役者は往々教會を目して必然の害惡、遺傳せる障礙物、説教者が其運動を制肘せられ最大の効力を抑留せらるゝ機關なりとす。此種の人物は此世界に功績を顯さんとするに熱心なり。彼等の願望は社會的秩序を改造せんとするにあり。彼等は大仕掛にて事業を成さんことを欲す。教會の如き微々たる團體に従事するは肩巾狭く且つ賤めらるる者の如く感ずるなり。彼等の

欲する處は教壇なり、據て以て其使命を叫ぶ地位なり。彼等は猜疑の眼を以て教會の役員を視、寧ろ單獨に働かんことを欲す。彼等は教會堂のうちに留らざるべからざるを悲しむ。劇場は更に良く彼等に適するならむ。牧會的訪問の如きは彼等の嫌ふところにして、思想の宣傳と世弊の矯正に用ゆべき時間を徒消するものとなす。固より教會は其効能あり、牧師の報酬を給し會堂番に給料を拂ふ、但し之を除いては其効能は疑問なり、其事業や平々凡々、之が爲めに費す時間は他の方面に於て更に有益に利用するを得べしとす。斯の種の教役者が其教區の訪問に出づるや、先づ訪ふところは印刷業者なり。彼は印刷業者のインキを信ず。印刷業者のインキは人をして彼の存在を知らしむるに足る。彼は活ける教會が廣告の目的としても市内の凡ての印刷機よりは有効なることを知らざるなり。彼は多衆に接近せんが爲め

に名刺を配布す。然れども彼は、其教會に接近する方法を最も善く解する説教者は最も善く群衆に接近するものたることを學ばざるべからず。彼は群衆の人望を得るに狂せんばかりにして、其が爲めには教會を踏み倒すも敢て意とするところにあらず。是れ恰も小學校教師が村民を教へんとて其學校を捨て、醫師が都人を療せんとして其病院を無視し、若しくは將軍が敵兵を塵殺せんとして己の軍を離るゝが如きものにあらずや。彼は此世を改造せんとして熱狂す、然も此世の一部にして特に先づ彼の手に困りて改造せらるべき必要あるものは彼の教會たるを考へざるなり。彼は此世、此肉、此悪魔と戦ふべく、按手禮を受けたるものなりとの確信を有す。而も其幼稚なる、凡て是等の敵は彼の教會に於て彼を待ちつゝあることを知らざるなり。

若し夫れ群衆に接近すべき努力に於て、教會を無視するは大なる誤

謬なりとせば、直接に教會に従事するに當つて教會を輕視するは更に甚しき大誤謬と云はざるべからず。數多の教役者等は教會を以て土塊若しくは木片の如く己の意に従つて其形を造り得べきものとなす。彼等は教會には教會の心靈の存する事を信せず。彼等は直に之を改造せんとす、而して朝飯前に其設計を畫す、かつて一事の彼の意に適するものあらざるなり。日曜學校は惡しき基礎の上に置かれたり、青年會は誤れる手段を執れり、婦人傳道團は陳腐なる組織になれり、クラブ、ルロールも新規則を設けざるべからず、凡て是等の變革は早速に着手せざるべからずとす。新しき教役者は、教會が其れ自身の氣分と氣象とを有すること、其人格は個人と同じく明晰にして且堅實なること、教會は有機體にして神聖なる傳承と崇敬せらるべき習慣と尊重せらるべき思想と容易に無視すべからざる特質とを有するものなることを

知らざるなり。説教者たるものは凡て彼等の祖先と等しく一の寄寓者たるに過ぎざることを解するものは幸なり。彼は永き傳統の列に立つものなり。他の多くのものは先に勤勞せり、而して彼は今彼等の勤勞に加入するなり。彼は此の世界の元始に在るが如く初めて事業に着手するにあらず。教會は已に彼以前に生れたり、彼れの死後も尙存在するなるべし。彼は寂寞たる孤島にある宗教上のロビンソン・クルソウにあらず。海岸には人跡を以て充てり。若し彼れにして才能あるものならんには、之れを以て人の進みゆく方向を察するを得べけん。説教者が都市に於て最初に意を注ぐべきものは彼の教會なり。直ちに之を學び、之を解せんと努め、之と同感となり、之が爲めに計畫し、之が用に身を致し、自ら教會の一部たらんと奮勵すべし。斯くして終に教會を愛するに至るべきなり。一たび之を愛せんか即ち成功する

説教者の第一資格を有するものと云ふべし。

若し教政上教會を輕んずること危険なりとせば、説教に於て之を無視するは致命傷なり。青年教役者の初めて其教區に赴くや、ノートブックは頗る豊富なり、彼等は其ノートブックに基きて教會を築き上げんとす。是は大なる誤謬にして、聖徒をして神學校に關し面白からぬ不禮の言を發せしむる原因をなすなり。説教者は其教區よりノートブックの方に働くものならざるべからず、教壇の教訓の性質と其影響とを決定するものは教會なり。教會は成長する有機體なり。而して説教者は之を保育する前に當りて其發育の階程を知らざるべからず。教會が現在所望する材料なるや否やを知らずして、其ノートブックにある材料を用ゆべからず。彼のノートブックの内容は恐らくは濕へる鋸屑なるべく、或は火藥なるべし。濕氣を與へて以て害を加ふべし、

或は爆發を來すべし。教會よりノートブックの方へ働くにあらずして、ノートブックより教會の方に働ける爲に其教會より投げ出されし人なきにあらず。教會の消化力と同化力とを察し、然る後其材料をノートブックのうちにも求むべし。醫師は常に調劑局に入るに先ち其患者を診察す。賢明なる説教者は彼の書籍より着手せず、教會より始むるなり。

牧師の自由に關する古き問題は常に頭を擡げて吾人を苦しむ。而して説教者が其權利と稱するものを固執するが爲めに發する誹謗は、教會の處理上最も困難なる事の一なり。各基督教教役者は勿論自由なり、然れども自由は其法則を有す。自由は貴重なり、然れども其制限を有す。教役者は自由なりといへども、彼の讀みしところ若しくは彼の方寸に浮ぶところ何事にて之を其講壇より宣傳するの權利を有

するものにはあらず。或る人々は常に此點につきて惑へり、彼等の惑ひは蓋し教會を忘却するより生ずるなり。或者は自己即ち教會なるものゝ如く思ふものあり。彼は信仰は聖徒即ち主に従ふものゝ全き團體に宣べられしものなることを忘る。彼は多數のうちの一人たるに過ぎず。神學教育は彼に附與するに別に一階級を造りて、自ら基督信徒の兄弟より獨立するものゝ如くならしむる權利を以てせず。彼は講壇の法王にあらず。彼は權利を有す、然れども彼の兄弟も亦然り、説教の自由あるが如く聽講の自由あるなり。彼は己の自由と稱するものを固執する爲めに、基督信徒として有する自由を他の同胞より奪ひ取るに至ることあり。基督の教會は神と人、義務と運命、ナザレのイエス及び聖靈、教會と聖禮典等に關し一定の概念を教ふる聖別せられたる教師として世に立つものなり。若し説教者にして其精神上の進

化の道程に於て教會が以て根本的なりとする信仰のいづれかを否定するに至らば、彼自ら辭職するより外に途あるなし。一定の信仰條目を教ふべく契約し、而して後其信念を棄つるに至らば、預言するの自由を行使するものにあらずして已に其語を遵守するを得ざりしものたり。何人も基督教の信條を放棄するや否や直ちに基督教の講壇より引退すべき自由を有す。教師としての自由の何物たるかを知らんと欲するものは、自己より教會に向ひて進まず、教會より自己に向ひて働かざるべからず。

或時は根本的教義を説教するや否やの問題は、或る倫理上の主義を宣揚し又は或種の道徳上の弊害を攻撃するが如くに痛切なる問題ならず。説教者は此處に於て又教會との間に正しき關係を造ることより始めざるべからず。教役者を維持する米國の方法にては、説教者は

絶えず趣味少き教説を抑制する誘惑に陥り、且又阿諛者若くは煽動家に墮落する危険を有すと稱せらる。其危険あるは眞實なり、然れども容易に避け得べきなり。人若し其教會を視るに侮慢の念あらんか、當さに其危険を懼れざるを得ず。されど愛は畏を除く。若し人其教會を愛し生命を以て其愛を證せんか、基督信徒たる教師が其學生に語るに足るべきこと及び基督信徒が其友人に告ぐるに適すること、凡て一として説き得ざることなきなり。説教者が卒直に會衆に説きしがために面倒を惹起するに至りしは、概して説教家が其教會を愛せざるに因るなり。若し何人にてても大教會の招きを得んとを願ひ、一週間己が書齋に閉ぢ籠りて、私かに其牧すべき羊群を賤しむ、而して主の日に於て講壇に立ち會衆の罪惡を叱咤せんか、必ずや暴風雨を發せずんば止まざる可し。何人といへども慈愛を以て其權威を獲たるもの、外他

一人を罵倒し又は詰責するの權能あることなし。説教者が使命を宣傳するに當りて其自由の問題に到着せんとき、最も要するところは實に教會に關する明白なる理想なり。

現代に於て更に目立つ現象は、教會期間の短縮せることなり、是は多く説教者の最高の事業に關する概念の朦朧たるに因る也。人若し此世に於ける自己の天職は説教をなすにありと考ふれば、即ち其濫蓄せる説教の盡くるまで一の講壇に留りつゝ、此教區より他の教區に渡り行くを好むならむ。斯る人は即ち説教屋なり、教會建設者にあらず。彼は説教を草するに慣れたれども、教會建設の術を學ばざるものと云ふべし。彼は基督の教役者の最高の事業の何たるかを知らず、彼は説教の何たるかを解せず、彼の知識は彼の任務のイロハ以上に達せざるなり。彼は自ら其全事業が罪人を悔改めしむるにありとす。罪人を



して基督に従ふを望むと告白せしめ、教會に列るべく決心せしめなば、其任務已に終れりと思考す。殊に知らず、教役者の事業の最も困難なるところは彼等が教會に屬せる後の事なるを。教役者は教師なり、教師の眞の事業は學生が入學手續を了せるのちに始る。彼は軍隊の將校なり、將校の主要なる任務は兵の入營後に訓練を與へ能く強敵に勝つに足る勇兵たらしむるにあり。彼は建築師なり、其業務は管に材料を蒐むるのみにあらず、是を整理し構成して永遠の存在者の宮殿を建つるにあり。教役者の冠冕たるべき事業は人を悔改に導くにあらず、教會を建設するにあり。人を改心せしむるを以て足れりとするは傳教者なり、未だ教會を以て任せらるゝに足らじ。彼の事業は貴重なり、然れども過重に陥り易し。彼は高き地位を占む、然れども最高のものにあらず。最高の地位は年々同教區に留り高尙にして困難なる生活

の術に於て人を教へ、而して精神的勢力を社會の道德問題の上に齎す事業にありて堅忍持久能く彼等を訓練する人に屬するなり。傳道者の事業は自ら赫灼として屢々青年の眼を眩惑す。エバンゼリヤ傳道は時には青年の眼に普通教役者の行ふ事業よりも更に基督に似、更に犠牲的の奉仕の如く見ゆることあり。然れども事實は然らず。傳道者の事業は、かの多年身を献じて粉骨碎身人々の生活を縫合せ正義に進達せしむるもの、事業の如く、理性と心情とに重責を擔ふものにあらず。靜かにして名もなき片田舎の教區にある青年説教者は、著名なる傳道者が勝誇れる勢もて東西に活動し人心を開拓するさまを讀みては、往々不安を感じ、更に大なる舞臺に躍進して、世界救済の大戯曲の目ざましき部分を演せんことを望む。然れども忘るべからず、世界の恩惠者のなかに於て地歩を占むる權利を贏ち得るものは、唯に種子を播くもののみ

にあらずして、能く之を培養し且つ收穫を貯藏する人々なることを。人をして唯一回のみ悔い改めしめたるは大事にあらず、彼等は幾度も悔い改めしめざるべからず。其面を正しき方向に轉せしめざる可らず。然れども其躊躇し其踟躕たる脚を鍛鍊して目的地に向ひて濶歩し得るものたらしめざるべからず。人を導きて神に向ひ教會に列るに至らしめたる説教者は敬すべし。然れども基督教説教者としての最高の事業は悔改者を教練して兄弟たる資格に達せしむるにあり。青年説教者が其教區に於て二年を経たる後「我が事成れり」と語るが如きは、未だ其の云ふところを知らざるものなり。彼は精撰せる説教の貯へも説き盡し、又教會外の悔い改むべき人々も凡て其名刺を通せるなるべし。然れども彼れ若し眞に教役者の天職を領會したらんには、其事業は今僅に其緒につけるものたるを見るべし。教役者は教會二

年にして其取扱ふべき材料の性質幾分を學ぶを得む。されども困難にして苦心多き建設の事業は尙其前面に横はるなり。彼が在任期間の長きにも似ず、最初目に觸れたるものよりも更に爲すべき多くの事業あるべし。教會建設に當るものは其事業の未だ決して結了せざることを知るなり。

吾人は多くの牧師等の胸裏に鬱結せる不安不満の念は、多く彼等と教會との關係につきて徹底せる概念を有せざるに基くことを怪ます。説教者は多く其會衆と親しく接近せざるが爲めに飢たる心を有するなり。説教は寂しき仕事なり。人は説教に於て汗血を滴らす、而して神経の強壯に復せずして止むと屢々なり。基督教的情愛を以て温めたる雰囲気の中にあらずんば、説教者たるもの如何でか其事業を爲し得べき。若き時代には説教するは痛快なることなり、蓋し人は自己表

現に依りて胸中の爽快を覺ゆるものなればなり。然れども年波の寄するに従ひて唯說話する動作のみにては快味の乏しきを覺ゆるに至り、其心情は益々似通ひたる心と心との親交を冀ふに至るなり。教會を愛せず、又教會に愛せられざる説教者は萬人中尤も憐むべきものなり。若し夫れ教役者にして其教會を通じて教壇に立つに至れるものならんか、教役者としての發達は必ず他と異なるものあるべし。

今暫く教會に關する思想の混亂せる時代の聲より轉じて、靜かに聖書を繙き、新約聖書記者の如く吾人の眼を教會の上に注ぎ、其眼光を一洗せしめよ。之を爲すに當つて、かの匹儻なき説教者聖パウロより始めずんば、何人か其適者として撰ぶべき。天才と聖別、情熱と能力に於ては、二十世紀間の長き名簿のうち、此タルソンの名の上に其名を記し得べき基督の大使あらざるなり。現代の多くの批評家と同じくバ

ウロは曾て輕蔑の眼を以て教會を視たりしなり。ナザレの預言者は、侮辱せられたる短生涯を終へて過ぎ去りしのも、反抗せられ、能ふべくんば全滅せらるべかりし熱狂信徒の一群を残したり。憤怒火の如きガマリエルの一弟子は、此新奇にして且呪詛せらるべき異端の團に對して、脅喝と殺戮とを加へたり。然れども一日ダマスコの一小教會を撃たんとて彼の腕を擧げたる時、パウロは、汝何故に我を迫害するやとイエスの語りたまふを聞けり。此間に二個の啓示を含めり。即ちイエスの品性に關する啓示と、イエスと其教會の關係の啓示と是なり。愕然として驚けるパウロは是れに依りてイエスは雷に活けるのみならず其教會と一體となれること、及び神の子たる彼に傷害を加ふるとなくして教會を賤め蔑み若しくは攻撃すること能はざるを發見せり。此れより後其死に到る迄、パウロは二大問題のほか知らずと

決心せり。一はイエスキリスト、他は其教會なり。彼の心中焰の燃るが如く其記憶に鮮かなる唯一の罪惡は、實に彼が教會に對して犯せる罪なりき、彼が其顔を塵に埋めて慟哭するは、自ら教會を迫害せることを悲しむなり。彼が自ら罪人の首なりと云ひ、使徒と稱ふるに足らざるものなりと宣ぶる所以は、教會に對する罪惡の記憶、洪水の如くに寄せ來るが故なり。彼の歡喜に充ち、氣力に溢れ、意氣の軒昂せるは、即ち彼が教會を考へつゝあるときなるを見ん。教會は寸時も彼の腦裡を去らざりし題目なり。彼は教會の性質と其使命に關する思想を適當に表明すべき形容の語を得んとて熱心に探求せり。或時は信仰の家族、エホバの家と考へ、或時は永遠の存在者の御座及び靈廟たる神の殿と見たり。又教會は基督の身體、基督の精神の働くところの有機體、基督の靈の働く機關なりと示されたり。更に教會は最も愛情に溢れた

るとき婦人の如く美麗にして光輝あり、此世の救主の花嫁として彼の眼前に立てり。且又教會は眞理の柱石にして、諸國民の眼前に神性の秘義、即ちイエスを高く捧持するものなり。教會は常に啓示の仲介者にして、又全能者が人と天使とに語るどころの機關なり。「諸の聖徒の中に最も微き者よりも微き我に此恩を賜ひて、測ること能はざるキリストの富を異邦人に傳へしむ。これ教會をして天の處にある政を執る者と權威を有てる者に神の萬殊の智慧を知らしめん爲めなり」。彼が教會に關して最も多く語れるは、最も成熟せる信徒、コリント及びエペソの人々に書き贈れるものなり。彼の書簡のうち最も深遠なるものはエペソ書にして、其論題はキリストの教會なり。パウロが教會に關して多く語り過ぎたることを悲しむは、基督教が現在の基督教の外ならざるを恨むに等し。

パウロが教會に關して好で用ゐたる形容は「神殿なり」。而して彼は自己を以て建築請負師と考ふるを好む。イエスキリストは礎石にして、基督教教役者は凡て彼の上に建つるなり。基督信徒は大なる神殿の壁内に注意を以て建てらるべき小宮殿なり。「爾曹は神の殿にして神の靈なんちらの中に在すことを知らざる乎。もし人神の殿を毀たば神かれを毀たん、蓋神の殿は聖きものなればなり、この殿は即ち爾曹なり」。此比喩は屢パウロの用ゆるところにして彼の言語に一種の形と色彩とを與へ、思も寄らぬ方法と場所とに於て時々現はるゝを見るは興味なしとせず。神殿は金銀寶石を以て造らるゝものなれども、パウロは不滅の心靈を代用して之を建造せんとす。而して此神殿を擴大し且つ裝飾する爲めに勞するを以て、神の與へたまふ最大の特權なりとせり。彼が改心者の心中に熱せしめんと努めしところは此神殿

の理想なりき。彼は此方法によりて、空中電雷に充ちたるときの如き、大膽不敵の精神を緊張せり。「爾曹今より賓旅に非ず亦寄寓者にあらず。聖徒と同じ邦、また神の家に屬する者なり。且なんちら使徒と預言者の基の上に建てらる。イエスキリスト自ら其隅の首石となれり。全屋みな構み立て、彼の中に在り。やゝに増して聖殿主の中に成るなり。爾曹も偕に彼の中に建られたり。是れ靈に由て神の居給ふ處となるべき爲なり」。されば是は神乃ちイエスキリストの父の成就せんことを望みたまふ事業なり。而して此計畫は基督信徒の協力によりて成就すべきものなり。パウロは唯に彼自身のみならず、凡て教會の役員たるものは、高より卑に至るまで凡て教會建設者なりと考へたり。「その賜ひし所は使徒あり、預言者あり、傳道者あり、牧師あり、教師あり。これ聖徒を全うして、服役の事を行ひ、キリストの體を建てんため

なり。此節は誤譯と正しからざる句點の爲めに文意を害するに至れり。基督教々役者が爲すべき聖められたる三種の特別なる任務を示すものゝ如く三部に分たる。されど實際は唯一事のみ。彼等の事業は、パウロの所謂キリストの體即ち教會を建つるを目的とし服従の働きのために信徒を備へしむるにあり。基督教々役者の事業に關するパウロの見解に従へば、教會の建設は即ち各教役者の最高の目的なり。

教會建設の任務は凡ての信徒に屬す。而して信徒をして其建設の術を訓練せしむる爲、各種の品位と稟質とを有する教役者は教會の首長より撰ばれ、又授膏せられたり。パウロは常に自ら建設者を以て任じ、屢ラテン語の「徳を建つる」、アングロサクソン語の「建造する」てふ語を使用せり。彼が自身を建築者と見做すところより、自然其説教の用語

之に支配せられたり。「教會の中に在て我方言をもて一萬の言を語らんより寧ろ人を教へん爲めに我心を以て五言を語るを善とす」。彼は方言の徳を建つるに功なきが故に之を使用するを欲せず。意義の解せられざる言語を用ひて、如何にして人の徳を建て得べき。人若し其教會建設者たることを忘れたらんには、或は科學的、或は哲學的、或は文學的、或は術學的にして、唯自ら樂しみ、而して聽く者には不分明なる言葉を使用するに至らむ。パウロの時代以後凡ての基督教説教者が、説教の目的は教會建設にありてふパウロの思想を固く把持したらんには、絢麗にして然も實質なき修辭の雲のうちに翱翔し、若しくは哲理など、稱して獨り喜ぶ深き坭中に陥るもの少かりしならむ。パウロが「若し食物わが兄弟を礙かせば我は兄弟を礙かせざる爲めに永久に肉を食はじ」と云へる如き語を書せるは、其教會建設者たるが爲なり。パ

ウロは何が故に肉を食はざる。蓋し正當なる行爲は必ずしも他の利益となるものにあらず。正當なる行爲必ずしも人の徳を建つるものにあらず。基督教々役者は爲すべき抽象的權利あることを行ふにあらずして、教會を建設するに足ることを行ふべきなり。されば教會建設の思想は以て教役者の行動を主として支配し指導すべきものと云ふべし。教會を建設するに適當なる爲には、如何なることも教役者は行ひて可なり。教會を破壊することは如何なることも之を避けざるべからず。かの教會が徐々として崩壊するにも拘はらず其法理上の權利を固執し、若しくは教會を寸断することを知りながら其偏癡なる政策を遂行するものは、最初の大説教者が導かれし主義に據りて行動するものにあらずるなり。自己の權利を飽迄も主張し、而して自己の寂寞を非常に感ずるものあり。自己の權利に向ひて炯眼を

開くものは、多くは教會の光榮に對して盲目たるを常とす。自己の權利の智識は自負せしめ、教會に對する愛情は建設す。片意地と虚榮心とは屢謹直と聖別の衣を纏ふ。「説教者と教會と孰れを犠牲に供すべき」との間を發せらるゝとき、パウロに従ふものは直ちに之が正答を與ふべし。若し自己を大にして教會を小にするときは、最も敬虔なる教役者と雖も、最も危険にして最も悪しき人類の一人となり得べし。教會を寸断にするものは正に税吏と異邦人と共に外に追ひやるべきなり。

信徒も説教者も共に同一の主義によりて結束せらる。信徒は説教者と同じく教會建設者なり。クリスチャンに適宜なる定義を下せば「イエスキリストの教會を建つるものなり」と云ふを得べし。建築の棟梁たるパウロも「おのゝの徳を相建つべし」と、テサロニケにあるクリ

スチャンの團體に書き贈りたり。是は不斷の警告なりき。人類は石壁の破壊するが如くに頽廢す。滅すべき土と石とは分離して倒れたり。人の性情は朽爛し、其品性は粉碎す。心靈の徳性は滅却して、人性は再建を要す。是れクリスチャンが互に努力すべき事業なり。而して使徒が彼等に警告して盡さしめんとせる奉仕なり。「相互に徳を建んことを追ひ求むべし」。「我儕おの／＼隣の徳を建んために善をもて之を悦ばすべし」。是れパウロがロマにある教會の會員に書き贈れるところなり。「我儕人と和睦せんこと、相互に徳を建んこと、」を追ひ求むべし」とは、彼が凡ての教會に語れるところの要旨なり。第一世紀の教會員の多數は建設の意義を十分に領會せざりき。彼等には宗教は個人的の所有物、賞玩すべき重寶、喜悅すべき經驗なりき。彼等は自身を社會の會員、有機體の機關、神殿の石材として識認せざりき。而

して其結果は頻繁なる不和と悲慘を來す誹謗となる。人々各自の性癖に従ひ、各自の虛榮心に耽り、各自の誹議を好む氣質を縦にし、會衆の一致を粉碎せり。いづれの教會と雖、コリントの教會に於けるよりは、惡しき状態にありしものなし。思ひやりて親切を盡し、忍びで人を容るゝ如き美德は、地を掃うて空し。虛榮を貪り、自己の利達をのみ計る弊風は、滔々として流れたり。悲める使徒は、此教會に對してその建設の思想を表明せり。彼は公共禮拜の弊風の如何にして發生するかを説けり。即ちクリスチャンが己れの建設者たる事を忘却せる所以を説けり。彼は又若し人々建設の事業に献身したらんには、イエスの名を辱かしむべき罪惡は自ら消散すべしと感じたり。彼の警告は要するに一句にて盡く、「何事も徳を建つる目的を以て行ふべし」と。

是れ實に説教者が其説教を草する机上に銘刻すべき適當なる標語



なり。説教者は何よりも先づ建設者たり。彼は肯定を以て事に従ひ、否定を以てせざるなり。彼は建設す、而して只建設に附随して破壊するのみ。彼は建築家なり、而して破壊家にあらず。事物を粉碎して快哉を呼ぶは惡の靈なり。説教者は否定を慎しむべし。牧會に當れる最初の五年間に於ては殊に然りとす。青年は宿命的に否定を好む。初心の説教者は其信する處を説教すべし。而してその自ら斥くることの教義に對して斧鉞を加ふる勿れ。會衆の眼前に斧を揮ひ、無暗に信じがたき教義及び陳腐なる解釋を斬り倒すに努むる説教者は、其教會の震動し其講壇の不安になるを驚くべからず。説教者が常に面倒を惹起すは、勇氣の足らざるが爲めにあらずして、常識の不足なるによるなり。信徒は概して、合理的に見ゆる新思想に對し耳を傾くることを好まざるにあらず。然れども嘲笑を含むで其古き眞理を寸裂し、

而して罵聲を以て其上に刻印するものは、彼等の爲めに反抗せらるゝ事必然なり。人の性情は、殆んど凡ての人の古き信仰は誤謬にして且つ頑迷なりとの横柄なる宣言を聞くを好むものにあらず。人若し眞に濶大にして且つ高尚なる思想のうちに其歩を進めたらんには、宜しく教會が向上し且つ強健に進むべき方法に於て、其の新しき幻象を有すべきなり。説教の詞句は、總て死せる人を破壊する爲ならず、活ける人を建造するために撰ぶべし。説教者の書齋の壁上に掲げられたる有益なる語は、凡ての會衆の眼前に金文字を以て銘刻するに足るべきなり。教壇上の人も聽講席の人も凡てイエスに従ふものは、教會を建設するを以て天來の使命なりと確信するに至らんには、其公共禮拜に生ずる變化、多くの弟子の生活に發する革命、及び多數基督信徒の氣質と行爲上の改革は抑も如何なるべき。

パウロは教會建設の思想を何處より獲來りしか。又ペテロは何處より之を得たりしぞ。ペテロに取りても亦教會は神の家族なりき。而して二個の警告は相並びて與へらる。曰く「兄弟を愛し、神を畏れよ」(彼前三〇十七)。ペテロには亦教會は活ける神の殿なりき。ペテロの見るどころ、パウロの思想に劣らずして、イエスは其礎石たり。曾て人々に拒絶せられ而して神に撰ばれたる貴重なる石なり。此の活ける石の上に信者は其靈の家を建つるなり。ペテロの眼に映じたるどころによれば、其榮光は手にてつくれる神殿より消滅して、今や靈なる神殿、活ける神の教會のうちに在り。斯く熱烈に教會を尊信する心情は抑も何處より來れるぞ。兩使徒が如何にして教會を建築物として考ふるを喜ぶに至りしか。此等の思想と心情との源泉は疑ひもなく神の子にてありしなり。マタイの説くところによれば、イエスの生涯

の危機に際し、カイザリア・ピリビに於て二個の告白出でたり。一は即ちシモン・ペテロの告白せる「爾は活ける神の子キリストなり」といふ語なり。是は人が滿腔の至誠を以てイエスの天來の起原と性格とを認識したる最初の聲なり。此事あれかしとイエスは期待せり。今や彼は彼の告白をなすべき時となりぬ。曰く「ヨナの子シモン、爾は福なり、蓋は血肉なんぢに示せるに非ず、天に存す吾父なり。我また爾に告ん、爾はペテロなり。我教會をこの磐の上に建つべし。陰府の門は之に勝べからず」と(馬太十六〇十七、十八)。光り閃ける此語には熱心あり。彼等は其身體のうちに意氣軒昂禁すべくもあらざる歡喜の情を湛ふ。此聲明によりて新黙示の感動を大空に投じたり。或者は長く密封せられたる秘義が光明のうちに現はるゝに至りしものゝ如くに感ず。或者は終に世のメシアの來臨を承認せり。而して彼及び其同僚と確信

を同くする同僚には、今やメシアが何を爲さんとして此世に來りしかを啓示せられたりとなす。彼の目的は能く彼の精神を體得し、而して彼の事業を永遠に傳ふるに足るべき一の社會、一の同胞、一の制度を設立するにあり。此啓示は群衆に與へられざりき。群衆は之を領會する能はず、又は之を用ゆる能はざりき。最高の眞理は聽くに足る耳を有するものみに開示せらる。十二の弟子は始めカイザリア、ピリビにて話されたる語の全意義を理會する能はざりき。彼等はペンテコステの日の後に於てより善く之を理會するに至れり。今日と雖も完全に此語の眞意義を理會し得ざるもの少からず。是は唯精神的に認識することを得べき神の企圖を現はすものなり。

教會はイエスに對して無頓着なる事柄なるを證せんとする幾多の辨證唱へられたり。論者は曰く、彼は唯理想にのみ意を用ひたり、而し

て基督教會なるものは彼の野心に富める弟子等が後日案出せるものなりと。此辯論の確實なる證據として誇りがに説いて曰く、イエスは只二回の外教會に關して語れる事なし、其意に介せざりしや知るべきのみと。聖書に示されたる度數の多少に依りて、事實の輕重を測るは現代流行するところの淺膚なる聖書解釋法たり。是れ實に智力の活用を無視するものにして、且つ杓子定規を以て困難なる、精神上の問題を計量せんとするものなり。されば計算術に最も巧妙なる輩は新約聖書の眞意義を最もよく知るものと稱すべし。然りと雖も、事實は名なくとも存するを得。單純なる數學者は決して福音の眞義を解し得るものにあらず。當時イエスが毫も論及せざりし事物の數少からず。蓋し其等に關しては、世人は既に學得せるものなればなり。且つ福音書を記せる人々にとりて多くは知れ亘りたることなるが故に、其

の記録に存する彼の語中には廣き缺陷の存するあり。一の宗教が組織もなく、役員もなくして生存し、且つ勝利を占むるを得べしとは、第一世紀の凡てのユダヤ人には考ふべからざる思想なりき。且つイエスが危機を速かならしむることなく、公然語るを得ざりし幾多の論題ありき。其論題の一は彼のメシアたることなり。或る新約聖書學者が彼は毫も之を教へざりきと宣ぶるが如くに極めて注意深く且つ附隨的に之を告げたり。是は精神的に領會せらるべき事實にして、其れ自身の精神の力を以て此世に明かにすべく放任せられたり。若し屋上に立ちて大聲之を叫ばんにはイエス一生の悲劇の最後を促進せしめたるならむ。彼のメシアたる事に關して然りし如く教會に關しても亦然りき。暫く中止すべき必要ありし悲劇を急激に演せしむるとなく、ユダヤ教會の執迷的熱狂者等の眼前に於て、其教會に關する思想を

如何にして説き得たりしや。故に私に保存されし事物は必ずしも無用なるものにあらず。沈黙を守るべき必要あるものは非常に大切なるに依ることあり。イエスは明白なる理由の爲めに公然教會に關して説かれざりき、其到達せんと試むる心情に成るべく猜疑を起さしめず、成るべく憤激を來さしむべき語を用ゆるにつとめられたり。然しながら公然たる發表をなさざりしと雖も、彼は心中に教會を慮りカイザリア・ピリビに於ける事變後、遠慮なく自己を披瀝し、十二人の心靈を結束して一の同胞となし、之を擴大しては世界を包容するに足るものたらしめんとせり。兩眼故障なき人には、教會は福音書のうちに高く聳え且つ遍在せる事實たる也。最後の夜、樓房に於てイエスの説けるは、教會に對してなりき。是に對し、唯是に對してのみ彼は聖靈の約束を爲したまひたりき。是が爲めに、唯是が爲めにのみ、彼は祭司の

長たる祈禱を捧げたまひき。是に向て、唯是に向てのみ彼は復活後其身を現はしたまへり。是に對し、而して唯是に對して、行けよ、諸國民を弟子とせよ、この大任を授けたまへり。之を一個の信徒にあらず、信徒の社會に對して爲したまへるは即ち最後の、又想像すべからざる勝利を保證せるなり。

イエスは教會を創立したまはざりきと説くに至りては、其用語頗る説明を要するものあり。教會を創立するの意は一群の人を集め、會の憲法規約を定め、教會政治、及役員に關する細則を設けて之を與ふるの義なりとせば、イエスは教會を創立したまはざりきと説くを以て正當とせむ。然れども十二人に對する彼の事業を考へ、更に百廿人が彼の靈、即ち彼等を導きて眞理を知らしむべしと約束せられたる聖靈を受けたるのち、直に何を爲したるかを察すれば、基督教會を組織せるもの

はイエスにして、而して唯彼のみ正しく其創立者と稱せらるべしとの結論に到着するならむ。吾人若し使徒行傳を以て典據すべき歴史として承認し、且聖靈の指導を信するならんか、されば吾人は、教會を組織せるはイエスの業なりとの結論を免るゝことを得ざるなり。何とならば、生と死とに於て、彼に最も近かりし人々、及び雲彼を接けて見えなくなりたるのち、彼の靈を以て充されたる人々は、直ちに身を投じて信徒を結合し教會を組織する事業に當り、彼の名に入れて、バプテスマを施せり。イエスの約束は、聖靈わが物を受けて、爾曹に示すことなりしが、彼等に示されたる最初のこととは即ち基督教會なりき。教會は基督の靈の避くべからず、また壊滅すべからざる創造なり。是れ彼の創立にして、又其の意志の發現たることは、基督信徒の經驗に徴するも明なり。基督教の永續は教會によるものなることを歴史は證明せり。教

會は基督教の欠くべからざる要素なり。イエスの主義は教會の助力なくして人類社會に確立するを得べからず。教會は事實イエスの體なり。彼は是なくして偉業を成し給はず。各國に於て彼の成就せる事業の總高は其國に於ける教會の性格によりて定まる。各社會に於て彼の爲せる奉仕の種類は其社會に於ける基督教團體の性質によりて決せらる。教會の榮ゆるとき、社會は發達す。教會の衰ふる時、社會は墮落す。教會の優勢にして元氣に満ち、精神的なる時、社會の雰圍氣は爽快にして透明なり。教會腐敗して世俗的となるや、日は暗く月は血の色に變ず。イエスの主義が教會に依りて異教の地に扶植せられ且灌漑せられて始めて能く其根を地中に下すなり。福音若しクリスチャンたる同胞の爲めに存せるものにあらざりせば、即ちバレンスチナの外に傳はることなかりしならむ。教會の爲めに存せるものにあら

ざりせば歐洲を出で、英國に至ることなかりしならむ。教會若し之を宣傳せざりしならば舊世界より新世界に達せざりしならむ。教會を外にして基督教の勝利の希望あることなし。かるが故に曰く、我は我教會を建てむと。教會は彼れのものなり。彼は建築者なり。説教者は其の神氣沮喪するに及むで、宜しく彼の語を聽くべし。「我は我が教會を建てむ、主若し家を建てたまはずば是を建てんとする働きは空し。彼は活動す。教會は毫も吾人の私の企業にあらず。是れ彼の業なり。吾人は彼と同勞者なり。彼は常に吾人の列に在り。死の門は之に勝つ事を得ず。批評家は憤り、聰慧なる論客は空しき事を想像す。もろもろの邦土の王と支配者とは共に協議し、教會の榮光は退きつゝ、ありと云ふに一致す。天に座するもの笑ひたまはん。主は彼等を嘲り笑ふべし。教會は朽廢せず。人類は教會よりも成長し過ぎたるに

はあらず。未だ其の正午を經過せず。其勝利の道程は僅に一步を出でしのみ。吾人は曉霧のうちに奮闘しつゝあるなり。教會は吾人の前額を射る旭日なり、而して吾人は其將來の榮光を夢想するだに爲し能はず。吾人は永存すべき制度の爲めに勤むるなり。共和國及び帝國の國旗が襁褓のごとくに裂け、而して地球も死を味ひたるのちに於て、尙ほイエスの教會は榮光に充ち、朽廢することなく、衰退の兆なくして屹立せむ。陰府の門は之に勝つことを得ず。故に吾が愛する兄弟よ、混沌たる又混雜せる現代に於て、此世の蠶々たる不満と怨恨とに面して動さるゝことなく、堅く立ちて、常に諸君の生命と神が諸君の保管に委ねたる多くの生命とを、主の教會のうちに建設せられよ。諸君の知らるゝが如く、斯る勤勞は主にありて空しきものにあらざるなり。

## 二、同胞主義の建設

「兄弟たること」とは、使徒ペテロが教會に對して用ひし名稱なり。十二使徒の指導者にして、且我等の主が初めに天國の鍵を約したまへる人の抱ける教會の概念は、心を潜めて考究するを要す。教會の會員は、兄弟なりとはペテロの到るところに唱道せるところなり。「爾曹みな心を同くし、互に體恤り、兄弟として相愛し、憐み謙遜り」(ペテロ前三〇八)の語は教會員が互に懷くべき心情に關する彼の思想を約言せるものなり。彼は改心者に與ふべき幾多の忠告を有すれども、其主要なるものは即ち之なり。曰く「何事よりも先づ互に篤く相愛するをすべし。凡ての人を敬ひ、兄弟を愛すべし」。

使徒ヨハネも亦同一の概念を抱きたり。彼に依れば教會は兄弟の一團なり、而して教會員第一の義務は互に相愛することなり。此愛の使徒が記さんと努めしは實に左の數語の外に出でず、兄弟を愛する者は光に居る（ヨハネ一書二〇十）、われら兄弟を愛するにより、すでに死を出で生に入りし事を自ら知る（同書三〇十四）、吾儕また兄弟の爲めに生を捐つべし（同書三〇十六）、我儕神の子イエスキリストの名を信じ、彼の我儕に命せし如く互に相愛するは、即ち其の誠なり（同書三〇二十三）、愛する者よ我儕互に相愛すべし（同書四〇七）、神われらを愛し給へば我儕も亦たがひに相愛すべし（同書四〇十一）、若し我は神を愛すと云て其兄弟を憎む者は是いつはりびと誑者なり既に見るところの兄弟を愛せずして未だ見ざる神を何で愛せん乎（同四〇二十）、神を愛する者は亦其兄弟をも愛すべし、此誠は我儕彼より授けられたり（同書四〇二十一）。

我儕若しヨハネの書を繙かんか、彼が老齡に達して歩行も自由ならざるに及び、エペソの教會の青年等彼を幫けて人々の前に運びけるに、彼は群衆に對して繰返し繰返し、幼き兒等よ互に相愛せよと語れりと云ふ傳説を信するに難からず。何故に斯く幾度も繰返すやと問ふものに對し、彼答へて曰く、是れ主の訓誡なればなり。只此の一事のみ行はれなば十分なりと。

聖パウロはかの十二使徒が新しき誠を受けたる樓房にはあらざりき。然れども彼の教會に關する概念はヨハネ及びペテロと同一なり。パウロによれば、教會は同胞團體なり。パウロはテサロニケの教會に書を贈りて曰く、兄弟を愛する事に就ては我なんぢらに書き贈るに及ばず、蓋なんぢら互に愛すべきことを親しく神より教へられたれば也。爾曹マケドニアの全地なる諸の兄弟に此の如く行へり。されど兄弟



よ我儕勸む、爾曹ますく、此の如く行へ、テサロニケ前書四〇九、十。是れ實に彼が凡ての基督信徒を奨励せるところにして、幾度か同じき思想を表現せり。「諸の聖徒と偕に測る可からざるキリストの愛を知り、その濶さ長さ深さ高さを識る」は、唯クリスチャンが愛に根ざし愛を基とするによるなり。コリント前書に於て、パウロの愛の概念は、光輝赫灼消すべからず又忘るべからざる言語となりて發表せられたり。彼は愛の何たるか、如何に働き、感じ、考へ、而して如何なる勝利を占むべきかを宣べたり。之を欠けば假令他に如何なるものを有すとも、全く有せざるに均し。此語は基督教會獨特の資格に最も欠乏せる教會に書き贈れるなり。教會は一の兄弟たるにあらずんば、其同情及び其目的の相結合し而して其生活の交錯し融和せる男女の一群を稱して一の基督教會と呼ぶを得るも、其生命の本體には主イエスの印象を帯びたるものに非ず。

抑是等三説教者は、彼等の教會に關する概念を何處より得たりしか。彼等は唯彼等の受けたるところを述べたるに過ぎざるなり。イエスは彼の主たる事及び凡て弟子等の兄弟たることを彼等に教ふるを例とせり。彼の一生の絶頂に達せる頃、特に専ら教會の核實となるべき人々の心を結束するため、盡力せり。此任務は如何に重く彼の心を壓せしかはかの樓房に於ける言語態度に徴するを得べし。この日何事につけても、十二使徒の間には各自の氣質暴露し、而して卓を圍みて席に着くに當りて昔日の悪感、は再び勃發せり。節筵の興はさめたり。キリストは人々の心情甘美なるものあるにあらずんば、節筵を張るを得ず。彼は即ち盤と手巾とを持ちて弟子の足を濯ひ始めたり。是蓋し彼は彼等の足部の塵埃を氣にせるためにあらず、たゞ彼等の心

情の疎隔せるを痛く憂ひたるが故なり。此事の終るや、從來與へたる凡ての教訓に優りたる訓誡を宣べたまへり。「われ新しき誠を爾曹に予ふ、即ち爾曹相愛すべし。我なんちらを受する如く爾曹も相愛すべし。爾曹もし相愛せば之に因りて人々爾曹の我弟子なることを知べし」〔約翰傳十三〇三十四〕。是實に驚嘆すべき教訓なり。凡て福音を説かんとするもの、宜しく之を讀み、之を記し、之を學び、且つ内心に之を消化すべし。基督教生活の特色は實に、同僚クリスチャンを受するにありと宣告せられたり。人のクリスチャンたるを證するは、一般に人を受するによるにあらず、基督にある其の兄弟を受するによるなり。教練せられたる基督信徒の心情の最初なる、又必然なる果實は、其兄弟なる基督信徒を受することなり。是れ我等の主が絶えず其弟子に徹底せしめんと努めたるところの眞理なり。人心の極致は多く其の祈禱

のうち顯はるるが如し。死に瀕して捧ぐる祈禱のうち、其發露すること明かなり。さればイエスの最後の祈禱に耳を傾くべし。彼は其弟子等の一つならんが爲めに祈れり。彼は之れが爲めに繰返して祈れり。是れ彼の祈禱中に胸跳りたる願望の一なり。外部の世界は暫く彼の思想より離れたり。諸國民と彼等の需用とは地平線下に沈みぬ。彼は唯彼の教會と、彼の面前にある人々と、彼等の語によりて彼を信するに至るべき群衆を思ひ廻らしぬ。彼は彼等の爲めに心靈の融和と心情の契合と愛によれる一致とに優れる高き祝福を考ふることを得ざりき。「此はみな一にならん爲めなり。父よ爾われに在り、われ亦なんちに居る。かくの如く彼等も我儕にをりて一にならん爲、かつ世をして爾の我を遣し、事を信せしめん爲なり」〔約翰傳十七〇二一〕。されば交際はイエスの神聖なる權力の證據たるべきものにし

て、又彼が天より來れることを世に明かにするものなり。此世は推理若しくは哲學若しくは雄辯を以て敬服せしめ又改心せしむるを得べからず、されど唯基督信徒が互に相愛するを示すによるなり。「爾の我に賜ひし榮えを我かれらに授けたり。此は我儕の一なるが如く彼等も互に一ならん爲なり。我彼等にあり、なんぢ我にをる、蓋彼等をして一に全からしめ、且世をして爾の我を遣し、と、又なんぢ我を受する如く彼等をも愛することを知らしめん」と也〔約翰傳十七〇、二十二、二十三〕。是れ實に驚くべき教理なり。今日も尙清新の響あり。キリストは其天職は解くべからざる鍵鎖を以て人々を結束するにありと宣言せり。イエスを信する人々の兄弟らしきことに由りて世人の頑固なる心も融解し、イエスの語の眞實なることも識認するに至るなり。基督信徒が互に相愛するがために、此世は神に歸順するに至るなり。

新約聖書によれば、イエスの靈に入れてバプテスマを授けられたる人々は、最初より教會を同胞團體若しくは家族として觀たること明らかなり。家族生活の名稱と慣習とは教會のうちに運び込まれた。教會は信仰の家、神の家族と認められたり。基督信徒は相互に「タリスチャン」と呼ばず、兄弟と稱せり。而して相會するや東邦の流儀に従ひて接吻を以て互に挨拶せり。集會には共同の卓を圍みて圓く席を列ね、共に愛餐を喜び樂みたり。主の聖晚餐は家庭に於ける社交的制度の中心なる晚餐の卓に緣故あり。教會の最も神聖なる此儀式は信徒互に相依るものなる事を回想せしむるにあり。教會は兄弟等の契合なり。種々なる恩寵の目錄の第一には、款待の恩寵あり。基督信徒が旅行をするに當りて、決して家庭より遠く離れたることを感ぜざるなり。信徒の會衆は凡て神聖にして、且つ精神的なる繋ぎもて共に結

束せらる。斯くして主の祈禱は成就せらるるなり。基督教會の初代に於て「教會」に關する通稱は「兄弟」なりき。然も吁、今や廢れたり。

暫く新約聖書を閉ぢて回顧すれば吾人は全く異りたる世界にあるを覺ゆ。其雰圍氣の變じて寒冷になれるを感ず。教會に關するローマン・カトリック派の思想はペテロの思想にあらず。カーデナル・ベラミアの述べたる其教會の定義に曰く、「唯一にして眞實なる教會は同一なる基督教信仰の告白と、正當なる牧師の支配、殊に地上に於ける基督の代理者の支配の下にありて、同一の聖奠(サクラメント)に共に列するところによりて統一せられたる人々の聚團なり」と。此定義に記述せられたるところは悉く外形のことなり。其うち毫も愛のことを説かず。ローマン・カトリック派の實際に徴するも、教會は其本質に於て僧侶政治なり、教會の役員は普通信徒よりも遙に高き地位を占め、かけ離れた

る一階級を組織し、主に従ふ一般のものは恰も見物人のごとく、唯僧侶階級を通じて神に參するなり。若し夫れ第四世紀より第十六世紀に至る間に於て、ペテロの椅子に坐すると稱する人々が、眞にペテロに倣ひ、凡ての僧侶に對して、神の旨に従ひ、止むを得ずしてにあらず、喜びて、神の羊の群を牧ひ、また監督せよ。汚れたる利益の爲にせず醒めたる心を以てすべし。汝に與へられたる職權を肆にすることなく、汝自身を信徒の群の模範とせよと戒告し、而して凡ての會衆に對して「兄弟として愛せよ、爾曹のうちに熱烈なる愛を有せよ、兄弟を愛せよ」と訓示したらんには、基督教史は正に全く異なるものたりしならむ。

プロテスタント派も亦教會に關し新約聖書に説けるところを曇りなき眼を以て讀破せざりき。英國教會にて制定し、プロテスタント・エビスコパル、及びメソヂスト・エビスコパル教會にて適用せる教會の定

義は下の如し。「目に見ゆる人の教會は信仰ある人々の聚團なり。此處に神の潔き語は説かれ、聖奠(サクラメント)はキリストの訓命に従ひて正しく執行せらる。凡て此等の事は必要缺くべからざるものなり。」ウエストミンスター告白にも曰く「公同的若くは普遍的教會は目に見えざるものにして、其首なるキリストの下に一に集められ、集まり、又集まるべく撰ばれし者の總體として成り、萬物の中に充つる彼の配遇たり、身體たり、又充實するところなり。目に見ゆる教會も亦福音に従ひて公同的若くは普遍的なるものにして、世界中の眞宗教の告白者及び其子孫によりて成り、主イエスキリストの國たり、神の家及び家族たり、この外普通教はるべき力あるとなし」。是等の定義は多少の變更を加へてプロテスタント基督教國の信條の最多數に再現せり。プロテスタント派が著明なるものたらしめたる基督教會の二特色は、言を説く

こと、聖奠を守るとなりき。されども説教は教會を造るに足らず、聖奠(サクラメント)を適當に守ることも亦然り。教會の定義のうち其の首長が根本的のものとして教へたるところを包含せざるは實に禍なりと云はざるべからず。イエスは如何なる時に於て愛の責任と其の實行とに優りて聖奠と説教とを重大視せるとありしか。謂ふところの地上に於ける基督の代理者なるものは教會を作るものにあらず。監督、説教者、バプテスマを授くるもの、パンと葡萄酒の上に感謝の祈禱を捧ぐるものも、亦教會を造るものにあらず。教會は同胞團體なり。交際を訓練する學校なり。社會的徳性と人情の優美とを養成する家庭なり。神の子に對して同一なる忠節を盡して同情と聖き奉仕とによりて共に相結束せる一の社會なり。是れ愛の法則を理解し且つ實行する力を得ん爲にイエスを仰ぎ、常に新しき誠を學び且つ之に生活

せんと努力する忠信なる人々の聚團なり。此の新しき誠は凡ての教會を測量すべき尺度なり。此尺度の光明によりて世界の教會は自ら貧しく盲目にして且裸體なることを知るなり。多くの都市の教會は會て互に相識らざる人々によりて成り、而して又互に相識らんと欲せず。多くの村落の教會は互に識れる人々によりて成れども、却て互に相識れるを悲む。かの新約聖書に尤も必要なる一事として定められ、且之を措きては此世を基督に服せしむると能はざる一事は、今日最も教會に疎せらる。イエスの教會の内部により十分に於て、より濫かき交際を創むるは、説教者が神より命せられたる第一の事業なり。然るに多くのものは内に留りて其任務に従はず、却つて遙かにサラセン人に抗する我儘なる十字軍に投じて疾走し、喇叭を激しく吹き立て、以て經濟的及社會的秩序を改造すべく狂奔して其勢力を徒費するなり。

感謝すべきは、新しき誠を能く理會し且つ尊敬する會衆あることなり。此會衆の上に基督教國の希望はかゝれり。彼等の手は凡ての戸を開くべき鍵を握れり。彼等は世界の待ち望める秘密を有す。何れの教會に於ても主及び使徒等の説ける愛を全く有せざるものはあらざるべし。是れ吾人の望む所なり。痲痺し若くは死亡せる如く見ゆる會衆のうちにも、常に其中心には、其心情聖靈によりて鎔解せられ、其生涯が基督的事業と祈禱を共にするに依りて融合したる忠義熱誠なる信徒の小團あるを見む。大小は兎に角、此愛ある人々の團結を擴張し、是をして智慧と勢力とを以て汪溢たらしむるは基督教々役者の盡すべき明白にして嚴かなる事業なり。是れ即ち主の爲し給へる事業なり。而して主は曰く「我に従へ」と。

憶ふに基督教々役者の用ゆる説教題のうち、我儕の主の金言「我爾曹

を愛するが如く爾曹も相愛すべし」の如く稀にして而も大切なる句は福音書中に少からむ。之は見出すに難く又理會しがたきものゝ如し。此句は屢々其教示する處と全く異なる意義に解釋せられたり。普通の解釋は「到るところに於て凡ての人を愛せよ」との義となす。然れども斯の如き解釋は全く其内容を空虚にするものにして、イエスが其心中に抱ける事業を完成する能力を奪ふものなり。彼は此語に於て漠然たる人道主義若くは卸賣的の慈善事業を奨励せるものにあらず。彼は之によりて人類の兄弟たる事を宣言するにあらず。彼は一般の人類を思ひつゝあるにあらず。彼は其教會の會員に語りつゝありしなり、而して彼が彼の説くところを此世に立證するため、信徒たるものが如何なる生活を共に爲すべきかを示せるなり。彼の勝利は彼等が互に相愛するによりて獲らるゝなり。要するに尋常一般の愛にあら

ずして、彼の型に似たるものたり、白熱的にして、且つ天來の性質を有するものなり。基督信徒たるものは他の人類に負ふところなき或る事を同僚たる基督信徒に對して負へり。其第一の義務は同僚信徒に對するにあり。第一の責任は基督信徒たる兄弟に對するにあり、其第一に慮るべきところは、基督にある同僚との關係なり。他の人々が基督信徒となるは、基督信者がイエスの犠牲的行動に従ひて互に相愛するに因る。愛は教會の法則なり。愛は内弟子たる徽章なり。愛は傳道者の長にして、又教役者の首なり。愛は克服する力なり。世人の心の戸の開放せらるゝは、群衆に對する愛若くは人類に對する愛のためにあらず、たゞ基督信徒相互の愛に因るものなり、此教訓は明白なり、而して初代基督信徒は能く之を抱持したりき。初代教會の進歩の秘訣は、異教徒の群衆が「見よ、是等のクリスチャンは如何ばかり相愛するもの

ぞと叫べる語のうちに現はれたり。

されば説教者の主要なる事業は、其教會員の中に言行を以て基督の如き同胞的精神を培養するにあり。教役者のうち狹隘にして且つ價値なきもの、如くに思ひ此事業を抛つもの少からず。斯の如きを以て教役者の事業なりと述ぶるは、異端の如くに響き、多くの人心に反抗と激變を發せしむ。斯る教は暗黒時代に後戻りするが如し。基督信徒の同胞主義にあらず、廣く人類の同胞主義と、現代の耳を傾けて聞かむとするところの教理なり。萬人は吾人の同胞たり。現代的人は基督教信徒と否との區別を設けず、凡ての人を等しく愛せんとす。是が故に説教者は新約聖書記者の誤りて爲せし如く、特に信仰の家族に屬するものを重んずるをせず、人類一般を愛すべしと絶えず人に教ふ。是れ實に多くの教役者の最大誤謬を爲すところなり。彼は廣

濶ならんとの熱心の餘り、却つて狹隘に陥り。生命の主の劃せる制限を無視して却て薄弱に流る。餘りに多くの事を爲さんとして、却つて何事にも成就せず。自由に過ぎ、却つて損失なくしては放ちがたき差別を抹殺す。境界の上に昇らんとするに熱心にして、却て自ら雲霧の中に身を没するに至る。現今説教者に肝要なるは制限の作用と力とを理會するに如くものなし。人の偉大なる事業を爲し得るは、其能く狹隘なる限界に身を置くを甘んずるもののみなり。吾人の周圍にある人にして要領を得ざるが爲めに其生涯を空費するもの少からず。極めて多くの説教者は、餘りに一般的なるが故に實力を損す。思想及び行動の明確なることは、二十世紀の説教者が何物にも優りて先づ養成すべきところなり。集注は教役者生活に最も意を用ゆべきものなり。人類の同胞主義に關し雄辯滔々之を説くは易し。然れども其論



辯多くは活氣なく且つ効力なし。世の空氣には同胞主義の言論を以て充つ。然れども同胞主義は詩歌的の用語若くは即興詩人の能辯によりて實現せらるゝものにあらず。同胞主義は精神的創造なり、キリストによりて改造せられたる人々の事業なり。是は神の獨子との交りに基ける心と心との交りなり。此世の救済は基督信徒の心情及び生活の互に相結合するによりて行はるなり。パウロに取りて交際は總てなりき。彼の心情に溢れ居たるが故に、其書簡は是を以て充されたり。地方教會の會員を親しく結束し、各地方の教會を親しく結束し、而してユダヤ及び異邦の教會を親しく結束するは、彼の勞役と祈禱の目的なりき。基督教は主に於ける交際なり。交際なくば、信仰は空しく、希望は暗く、愛は飢ゆべし。此世及び凡ての世が聖徒の交りによりて、神の何たるか、何を爲し得るかを見るなり。

されば新しき誠の教理を大膽に説くことを懼るゝなかれ。主自ら教へたまひしが如く之を説くべし。汝の教會の會員をして美しく協同して生活することを訓練せしむるを以て汝の喜びとすべし。是は凡ての技術中の最も困難なるものなり。而して教會は此技術に於て人々を完成せしむる爲めに神の設け給へる學校なり。汝の教會の會員に基督信徒の交際の範圍と豊富とを教ふるは決して狹隘なる事業を爲すものにあらず。教會は世界の縮圖なり、此うちには世界全體を代表すべき勢力、關係、擾亂、害惡存在す。何處にも行はれ得べき害惡を、基督教會の内部の如く有効に攻撃する世界は他にある事なし。産業社會、人種等の問題にして深く外部と交渉するもの基督教同志の内部の如きはあらず。汝の教會員相互間の紛亂せる關係を處理するは、即ち各處の社會問題解決に貢献しつゝあるなり。汝の會衆内の階級的

反目と人種的反抗とを融和するは、世界的葛藤の最も無益なる争ひを解決する助けとなるなり。各種の人々及び諸種の境遇にある人々を導き、教會内の交際に於て兄弟として共に生活せしむるは、即ち世界到るところの人々をして兄弟たらしむべき日を近づかしむるなり。人類は造られつゝあり。而して教會は社會を一層高尚なる形體に陶冶し、一層優麗なる効果を生ずるに至らしむる機關なり。パウロはコロサイに於て奴隸を救ひて兄弟たるに至らしめたる時、彼は英米の奴隸制度に死の宣告を與へたるなり。イエスが其氣質、思想、社會的地位に於て、大いに異なる十二人を導きてエルサレムの或る樓房に同席せしめたる時、即ち全世界の各都市に於ける社會問題の解決せられたるなり。汝の教會の竈の火を燃すとき、世人は其溫熱を感ぜざる能はず。されど薪を一處に集むるにあらずんば火を燃す事を得べからず。

教役者の第一に爲すべきは、その人民を一處に集むるにあり。先づ其教會に説教せよ、然らば悔改せる後其教會は全世界に説教すべし。先づ教會に火を點すべし。然らば教會は社會を照すべし。都市のランプは教會なり。若し教會のランプ暗からば市の暗き事如何に大なるべき。

教役者が身を献げて基督信徒の交際につきて教會を訓練するは、決して其會員の情愛を偏狭にし、又は其同情の範圍を縮小するものにあらず。彼は世界に對する基督の大願の最も迅速に成就せらるべき眞の才能と勢力とを創造しつゝあるなり。情愛は狭き野に培養せられて、最も豊富になり、又最も強壯になるなり。到る處凡ての婦人に對して勳爵士的態度を持つるものは、決して他の婦人を愛せざるが如くに己の妻に愛情を注ぐ人なり。一人の婦人に對する愛情によりて、凡て

の婦人たるもの、美麗と威嚴とを廣く尊重するに至る。其情愛を凡ての子女に注ぎ、彼等を其心情の頂に集むるに迅速なる人は、即ち他兒を顧慮せざるが如くに自己の兒童を愛する父なり。己の家族に最も忠實なる人は、凡ての家庭の利害を擁護し且維持する先鋒者たるなり。愛は一たび燃ゆれば遠く延長す、されど先づ之を燃すものなかるべからず。イエスの教會は愛の焰を燃すべき明かなる目的を以て建てらる。説教は火炎を養ふ薪の一部なり。教會の事業は亦聖なる火炎を増し且之を保護す。聰明なる説教者は常に彼の教會の會員を豊富なる交際に入らしめんと努力しつゝあるなり。現代教會の弱點は其情愛の偏狭なるに存す。現代基督教の耻辱は其薄弱なる同情にあり。教會は金と思想と機關と會員數とに富めり、されど愛に乏し。是は半ば説教者の過失なり。彼等の多くのものは情愛の養成に失敗せり。

彼等は如何にして人の心情を開くべきかを解せず。彼等は漠然として諸種の問題及び所謂神の國に關して興味を有す。されども宗教教師として任命せられたる聚團に十分の興味を感せず。彼等はキリストの榮光の發展の爲めに、生活を融和し、人々を結束し、人々の目的及び同情を織り合はす事業を怠るなり。會員相互に同情を缺けるが故に、外部の世界と没交渉なる聚團あり。若し同情が深く教會の内部に養成せられたらんに、自ら外部の世界に迸り出でずんば止むものにあらず。多くの教會は労働者の煩悶と希望とを關知せざるもの、如し。是れ其の教會員が互に痛痒相關せざるによるなり。クリスチアンの愛は讚美歌のうちに表明せられたり。然れども其讚美歌を歌ふ人々の心中に存在せず。已に其隣に居る人をも愛せず、斯かる愛なき教會員が、いかでか縁遠き人を愛することを得べき。先づ愛が教會員相互

間の心中に燃えなんか、是れ即ち炎々として世界の端まで及ぶべき火なり。多くの基督信徒が外國傳道の事業に極めて冷淡なるは、主として彼等の社會的同情心の萎縮せるに基く。彼等の社會性は萎靡せり。而して同市の人民に對する責任を輕視す。いかでか地球の他面にある未知の人々の要求に應ずるを得んや。同胞的情愛の精神の缺乏は又彼等をして神を拜する能力を缺くものたらしむ。彼等の禮拜は器械的にして不満足のものなり。此秘義は夙に先哲の述べたるどころにして已に格言として存せるものあり。曰く、若し人既に見ゆる兄弟を愛せずして、いかで見ざる所の神を愛するを得んやと。吾人は人によりてのみ神を知り、人に由りてのみ神に到り、又は人を愛するによりて最もよく神を拜すとは、基督教教理の眞髓なり。多くの説教者は其教會の禮拜に熱を注がんと試みたりしが悉く徒勞に歸したり。是れ

彼は熱の起原が人間の交際に在るを知らず、敬虔の精神を富饒ならしむる第一歩が、其の書齋の内にあらず、又神の禮拜を樂まざるべからざる所以を證する緻密なる論證にもあらずして、教會員が互に相識るに至るべき社交的集會にあることを思はざるなり。基督信徒が絶えず互に興味を交ふれば、益々神に興味を有するに至る。人を愛するは神を愛する恩寵のうち成長する唯一の途なり。若し教會にして社會化せられずんば、如何でか教會が社會運動に興味を感ずるを望み得べけんや。一群の人士にして其利害互に相關せざる如きものは、悅樂と雀躍する心情とを以て祈りの家に會し、若くは神國の進歩の爲めに努むる基督教的奉仕の地位にあることを得ざるべし。説教者の第一の事業は「同胞主義」を建設することなり。已に一度造られたらんには、是より凡て信仰復活の流は湧き出づべきなり。

現代は新しき誠の意義を考へ、人々を訓練して之を實行せしむる好時機なり。人々は曾て見ざるほどソリダリー(連帶關係)有機的生活協同的責任に關して考慮しつゝあり。商業界には協同組合の勢力の驚くべき啓示あり。工業界にはコンクチヴィズム(共產主義)の可能に關して了解の増すあり。新心理學は人格と社會との關係を深く洞察するに到れるあり。世界的運動には社會主義あり。生物界に於ては社會的關係の意義及び團結の奇跡的偉力に關する新しき理想あり。世界の思想の全般に涉りて神の靈は何事かを教會に告げつゝあり。耳ありて聽ゆるものは默示を受くべし。吾人は社會的時代に生存しつゝあり。而して最も切迫せる問題は社會問題なり。人の社會性は未曾有の活躍をなせり、而して否む能はざる満足を得んために叫喚しつゝあり。之は否定するを得ざる事實なり。人民は自ら都市に群り

つゝあり。是れ彼等が都市に於て最も多く需用せらるゝが故にあらず、又都市に於て事業の安全を圖り得るがゆゑにもあらず。都會生活に於て社會的欲望の満足を見出すが故なり。人は伴侶に飢ゆ。彼等は孤獨生活の善きものにあらざるを見たり。寂寥は堪ふべからず、孤獨は死なり。人々の群居するや團體を組織し、結社、組合、同盟、俱樂部を形成す。人は交際によりて生く。存在が生活に進むは、たゞ心と心、手と手が相聯るときなり。是を以て諸種の會は限りもなく増加するなり。是れ聰慧なる説教者の意を注ぐべき事實なり。多くの説教者は既に驚愕の眼を睜きて之を觀たり。幾多の組合、秘密結社、農業組合、俱樂部等は社會の男子を網羅し盡し、教會には唯婦女子と小兒を残すのみなることを見たり。彼等は慨然として腕を扼し世俗の團體組織に抗して絶叫し、是等を以て神の教會の敵として非難せり。然れども

凡て是等の非難は効あるものにあらず。何人も潮流の大勢を變ずるを得ず。人は社會的動物なり。神は彼を然かく造れるなり。人は交際すべく造られたり。若し之を神の教會のうちに見出さずんば、乃ち之を見出し得るところに求むべし。賢明なる説教者は敵對する團體に向つて電雷を擲つに時間を徒費することをせずして、現今最も微弱なる教會を強くする爲めに双手を揮つて活動するなるべし。神の大望は其の教會を以て其都會に於ける最も温く、最も勢力ある同胞團體となすにあるべし。外來者にして顧みられざるものなく、不幸なる會員にして親交を得ざるものなく、病者にして訪問を受けざるものなく、乏しき人にして助力を受けざるものなく、迷へる靈にして指導を受けざるものなく、哀痛する家庭にして慰藉を受けざるものなく、必要なる憐憫の行爲にして遺却せらるゝものなし。教會は一の家庭たるべし。

人は説教のみにて活くる能はず、唯神の口より出づる凡ての語によるなり。神の撰みたまへる語の一は交際なり。若し教會にして交際をなさしむることなくば、その責を免れざるべし。交際なき禮拜は自然に反す。新約書にある禮拜は兄弟等によりて行はれたり。教會の與ふるどころ、唯説教を聽き、席料を拂ふ特權の外に出づることなしとせば、誰か教會を愛するを得んや。人をして其の學びし大學を愛して忘れざらしむるものは、大學生活の親交なり。其母校に對する熱愛の情は學生時代に造れる友情より湧き出づ。博學なる教授より教へられたる抽象的眞理は、多數の人の其大學に對する不滅の情愛を喚起する者にあらず。彼の心に熱を感ずるは畢竟他の心と結ばるゝが故なり。人の教會に對する愛情の程度も、多くは彼と同僚たる會員との間に成立せる交情を以て量るを得べし。教會生活と其事業とに於て造れる

友情は、人の靈の有する最も神聖なるものにして且つ永續するものなり。人若し教會の社交的生活のうちに入るにあらずんば、實際上未だ決して其會員と云ふべからず。毎日曜日説教者が宗教的題目につきて説くところを傾聴するのみにては、假令其名は教會員名簿に録さるゝとも、以て教會員となすに足らず。交際は教會員たる主眼にして、此交際を培養して豊饒ならしむるは即ち基督教説教者の第一の任務なり。

教會と聽衆との間には明確なる區別を劃するを要す。較もすれば名目上の會員數の多少を以て教會を量り、且つ説教を聴く人數の多少を以て説教者を判せんとするが如きは痛歎すべきことなり。是れが爲めに淺薄なる輩は教會を目的とせずして聽衆の爲めに働かむとするの誘惑に陥るなり。されど聽衆は之を目的として働くほどの價値

あるものにあらず。聽衆は一時的引力に牽かれて集まれる無關係なる人々の群衆なり。彼等は短時間共に會せる個人の聚團に過ぎず。是は人間の分子の期せずして集會せるものなり。演劇の終るや否や直ちに散亂するなり。聽衆は吹く風に散る木の葉の堆積せるが如しとも云ふべく、凝結力なき土砂の一握とも評すべく、又講壇の磁力のため、其地位に引き付られたる人間の鎚粉の一團とも稱すべく、其磁力の除かるゝ否や直ちに散亂するなり。聽衆は群衆なり、教會は家族なり。聽衆は聚團なり、教會は交友なり。聽衆は一の集合なり、教會は一の有機體なり。聽衆は石塊の堆積なり、教會は神殿なり。説教者の按手禮を受けたるは聽衆を引寄せんが爲めにあらず、教會を建設せん爲めなり。粗大にして野心あり且世俗的なる人物と雖も、若し豊かなる天稟の材能あらば聽衆を牽き付くるを得む。されど唯主の弟子のみ

教會を建設するを得べし。世人の目して偉大なる教會なりと思ふものも、一度講壇の人物の消ゆるや否や直にヨナの葫蘆の如く凋むもの珍らしからず。其構造は枯草と木と刈株を以て成る、而して神の速かなる裁判の日の火に會すれば、乃ち忽ち消滅するなり。

數千の信者が其住所を變ずると共に教會との聯絡を絶つに至る所以は、多くの教會が兄弟の團體にあらずして寧ろ唯聽衆たるによるなり。彼等は毫も以前の教會員を意に介せず、故に他の教會員も亦其心を動かさざるなり。彼等が教會に加はるに當り、之を歓迎せしものは其教會の牧師なりき。教會は彼等の加入に相關せざるものゝ如し。死が彼等の家庭を見舞ひしとき、弔辭を述べられしも牧師なりき。教會は其愛子を失へるを見るも哀痛せざりき。財政上の危機に於て少なき家産を掃蕩せられ、此世の暗黒になりたるときも、同情の語を與へ

しは説教者なりき。されど教會は聊かも之を顧慮せざりき。離別の時間の近づきしとき、さらばと挨拶せるものは教會の主なる役員なりき。而して兄弟の團體は一語を發せざりき。是實に數百の教區に於て行はるゝ悲劇なり。而して斯かることの續出する限り、多くの説教者は衰退する會衆に對して説教せざるべからず。而して教會は踵に負傷せるにあらず、實に其脚を折れる巨人の如く跛行せざるべからず。一の教會にて飢ゑたる人は、自ら他の教會に屬するを好まず。彼は新しき家庭を自己の爲めに造れるとき、交友を與へ、其の心靈の生活し得る雰圍氣を供する社會に其身を寄すなるべし。

新悔改者養成問題は、古き信徒の歸依心を保留するよりも一層心を惱ますべきものなり。人を改心せしむるは教育するよりも容易なり。改心者は多し、されど發達せる働き人は少し。精神的覺醒の時季に於



て十人癒されしが如かりしが、説教者が彼等を尋求するに當り困惑しつゝ、叫ぶ、其九人は何處にあるや」と。基督教生活を始めたものうち精神的圓熟の境に到達するものは其小部分に過ぎず。其理由の一は人を滅却せしむる境遇にあり。周囲の空氣の寒冷なるが爲めに、新しき改心者は凍死するなり。彼は數月間喘ぎ而して後絶息す。多數の會衆は教會の義務を知り且つ之を實行すること稀なり、基督の弟子の初代の遺風を繼承するものは唯除外例の改心者に過ぎず。教會の雰圍氣のうちには生命を與ふる成分を含まず。教會は兄弟の團體にはあらず。新兵がイエスに従はんとて進み出るや、親愛の聲をあげて歡呼せらるゝことなく、又友愛の手を以て指導せらるゝことなし。信仰の初め、行くともわかぬ暗黒のうちにあるころ、何人もアナニアが兄弟ソウロよ見ることを得よ」と云ひつゝ、戰慄するソウロの頭上に温き

手を置けるが如くするものなし。初心の信者の爲めにもろくの天を開くものは、兄弟の手の接觸なり。成功すべき教會の遣り方は、兄弟の歡迎の手を以て説教者の聲を補足せざるべからず。説教者は單獨にては決して十全の能力を有せず。ペテロがペンテコステの日に於て偉力を有せるは、兄弟の全體百二十人が彼と共に立てるが故なり。聖書のみにては基督教を強からしむるに足らず。人の手と心とを要す。前代の聖者に由りて來れる默示は、現在の人々によりて來る默示を以て補充せられざるべからず。人の手は聖書も有せざる能力を有す。人の心には、人靈救濟の事業に於て、全能の神の力を全からしむる何物かを有す。雄辯は勢力なり。然れども情愛は更に一層威勢ある力なり。社會的交際は祈禱及び禮奠の如く、眞に恩寵の手段にして、又是等と共に尊重すべきものなり。熱は光と同じく心靈の發達に必要

欠くべからざるものなり。説教者は光明を與ふるを得む、されども熱の大部分は兄弟の團體より供給せられざるべからず。心靈の最も精美にして且つ最も深邃なる勢力は、社交的接觸によりてのみ導き出さるゝなり。接觸の各點即ちパウロの所謂「總ての關節」は、神の恩寵の溝渠なり。基督教生活の相接觸する點に於て生命は湧出し、以て教會に營養を與へ、其事業を爲すに足らしむるなり。神の恩寵は社會的結束より流出す。吾人は個人的愛着のために其位地に保たる。吾人は互に相救濟す。是れパウロが常に改心者に對つて互の勞を負へよと勸告せる所以なり。彼は神殿の比喻を以て満足せず、之を補ふに身體の比喻を以てせり。教會の會員は神殿の石壁の石と石と相接するよりも更に親密なり。彼等は有機體の各部の如く互に接合し、各機關は全體の生命及び繁榮の爲めに存在す。各部分は其全體に必要ななり。全

體は各部分に依る。説教者は兄弟の助力なくば無能なり。兄弟等が福音の眞理の燃ゆる雰圍氣を作るにあらずんば、彼の説くところ決して火を發することなかるべし。兄弟の助力なくば、彼は其改心者を保つこと能はず。彼は獨力にては精神上の子供等を其墮落より保護するを得ず。其勤勞の果實を保存する成功の度は、結托し且勝利を占むる同胞團體を造り又之を維持する能力によりて量るべきなり。多くの説教は信者が相互に負へる義務に關して説かれざるべからず。新しき改心者の生活を以て、かの危険なる而も榮光ある途を遙かに旅行せる人々の生活に聯絡せしむる困難にして且つ細心なる事業の爲めに、多くの時間を献げざるべからざるなり。

同胞團體の建設は吾人の事業なり。而かも神が人間に與へられたる事業中最も困難多く且つ阻礙多き事業なり。之が爲めに神の子は

十字架に磔せられたり。而して何人と雖も同様の事業に着手するものは、同じ杯を呑み、同じバプテスマを受けざるべからず。教役者は、同胞團體の建設に努力するに至るまで、非社會的人性の如何なるものなるか、將た如何に其の狹隘、冷酷なるかを理解せず。罪惡が如何なる荒廢を爲せしか、如何ばかり基督の弟子の本分に關する下劣野卑の觀念が多く、の信者の心に宿れるかを發見せず。人性が其深き醜惡を表明し、人心の奥に潜める多くの偏狹と賤陋とを暴露し來るは唯此時よりなり。主自身と雖も彼の一生の最後の夕、已に破られたる心に更に深き陰影を投せらるべき區々たる軋轢及び傷つける虚榮の陳列を見ることなく、十二の弟子と食卓を共にするを得られざりき。多くの信者には説教を傾聽するは比較的容易なり。是れ信者の品性に微かなる緊張を加ふるに過ぎず。多くの信者には金を寄附するは容易なり。

或る人々は心地よく之を出すならむ。撰ばれたる人々を説得して、基督教事業に従事せしむるは困難にあらず。沈溺せるもの、爲に働くことは寧ろ諸方に流行となれり。然れども教會員をして相互に眞に兄弟の如くならしむるは、是れ實に至難の業にして、多くの場合明かに不可能の事なり。自己の教會に在つては若き兄弟に興味を有せざる人々が宗教學校に於て少年を教ふ。教會の家族に在つては他の社會事業の婦人等を認識せざる婦人が、社會的殖民館若しくは傳道館に於ける婦人の爲めに働くなり。自國の教會に於て異邦人の如く行動する人が、外國に福音を宣傳する爲めに金を寄附するなり。青年説教者の驚愕は然ることながら、社交的隔離は聖別せられたる團體のうちに公行せり。階級的反目は最も熱心なる福音の説教の下に融和せず。人種的區別の線は眞直に且つ確乎として存せり。而して凡て敵視、嫉

妬、虚榮、偏見等世界に充てるものは、主の園の内にも成長せり。恐くは説教者が多く意を其會衆外の罪人に注ぐは是が爲めなるべし。自家の領内に於て、更生せざる矮人のために打ち敗られたるものは、遠方の怪物を攻撃して自ら快をとるなり。己の教區内の罪人等は、到底己の力に及ばざるを知るや、敗殘の説教者は全き絶望を以て、其注意を廣き外部の世界に轉ず。彼の悲劇は寫すに難からず、彼の大きな罪科は吐責を加ふるも害なく、而して彼の再興に關して警告を與ふるは痛快なり。

然れども主の僕たるものは容易なる事に従ふべからず。須らく困難なる事に當るべきなり。双手を其教會の上に置くべきなり。彼は其教會が唯聽衆たるに過ぎず、故に其會員をして主の用に立たしむべきため、打つて一團となすの必要あるとを見るならん。年長者は青年

に興味を有せず、而して年々廣く且つ深くなりたる罅隙を隔て、相對し互に瞰視するものあらむ。恐くは備主は高く持して備人と交らず、富者は決して貧しき人々に友情を示すとなけむ。新會員は久くし面識なき人として存在し、古き會員は多年相識なるが如き面持を顯はさずして六尺の距離に坐するならむ。恐くは又十年前相争ひたる人々にて如何なる仲裁談にも、頑として應せざるものもあらむ。彼等は教會に在りても又街上に於ても語を交ふとなし。而して彼等の心中に腐爛しつゝある惡意は全教會の雰圍氣を毒す。是れ實に教役者に取りて資本家及勞働者間の紛議よりも更に痛切なる大問題なり。教會員のうち教理上の意見を異にするがために、隔意を生ずるものあらむ。正統派の兄弟は思ふ、正統神學は彼と異なる思想を抱くものを罵倒する權利を與ふるものなりと。而して彼は眞理を擁護せんために、

新しき誠を脚下に蹂躪す。神學上の意見を異にする信者をして互に相愛せしむるやう訓練するは、税吏の最も頑迷なる輩及び罪人の最も狡猾なる徒を改心せしむるよりも更に困難なる事業なり。然れども此點に於てイエスは明快なりき。和解は禮拜に先立たざる可らず。愛の主は曰く、汝等祭壇に近づく前に、汝等の兄弟と和ぐべしと。或は又、會衆のうちバロウの如き輩起りて牧師及聖徒等の上に權を肆にするにあらむ。彼は多年困難を惹起したり、而して若し之を抑止するにあらずんば、更に將來長く困難を生ずべし。かゝる輩は夙に處理するを要す。彼の罪惡は習慣的飲酒若くは燃るが如き情慾と同じく、教會の生命を殺ぐものなり。教會會員中の非兄弟的の行動は當に教會訓練の好材料たるものなり。而して教役者が若し彼の教區内に座席を有する不敬虔なる暴逆者の爲めに、其教會を擾され且つ分裂せらるる

を許すに於ては、當に其の義務を盡せるものと云ふべからず。ユダの逃げ去るに至る迄、樓房に於ては何等の價值ある事をも行ふ能はざりき。多くの教會に於ても紛擾製造者を除名する迄は、再び主の聖餐を守るべからざるなり。忍耐と恩寵とは常に必要なり。されども明かに矯正しがたき罪人あり、彼等の途は當に險しかるべきなり。

是等は實に教役者の努力すべき至要の事なり。概括的に罪惡を非難するは容易なり、而して美はしき思想を發表するは更に容易なり。然れども教會員の各階級をして共に基督信徒たる生活と活動とをなさしむるは、最も困難にして、心腸を寸断すべき勤勞なることは、福音の教役者たるもの自ら覺悟を要するところなり。若し基督の教會が、兄弟の團體たるにあらずんば、失敗に歸せるものなり。之をして兄弟たらしむるは、當然教役者の希望と失望となり、十字架と榮冠となり。異

種異様の人類を陶冶して同胞團體を建設するは、決して看過すべからざる目的なり。かの社會的階級に従ひて組織せられたる教會は過誤の養育所なり。社會の一階級に屬する人々のみによりて成れる教會は、殘害せられたる精神的經驗を味ふ外なかるべし。富者の教會はイエスの理想に適せる教會にあらず、貧者の教會も亦同じ。富者貧民共に座して、始て主は彼等凡ての造主たることを信するに至るなり。教會は此世の勢力が分割したる人々の生活を和合結着せしむる目的を以て存在す。富者も貧民も、かの會て富者なりしが人の爲に貧者となれる者の脚下に集るべきなり。勞働者と資本家とは共に十字架の前に握手すべし。教養ある人士は無教育なる輩と共に、基督教的奉仕に於て相互の價值を學ぶべし。外國人も最早他人にあらずして、同じく神の家族の正員なり。同胞主義は此世の喧しく懇求するところにし

て、基督教會の與へざるべからざるところは同胞主義の模範なり。教會は實驗室なり、此處に於て兄弟的親愛の實驗は最初に且つ深切に行はるゝなり。教會は工場なり、此處に於て人々は兄弟に改造せらるゝなり。兄弟の心情を有する人は一の勢力にして、商工界の待望するところたり。教會が人類の爲に最大の奉仕を爲すは、自ら其中に最高なる愛の力を發達せしむるなり。

されば説教者は、其説教に於て己の教會に愛の精神を造るべし。而して諸教會は之を傳播すべきなり。此世は先づ教會の内部に同情及び好意の豊かに存するにあざれば、決して是等に關する説教を傾聽するものにあらず。教會自ら實行せざるところの理論を以て此世に與へんと試みるが如き説教者、果して何の役にか立つべき。何人も愛なき教會の團體に對し、有効に愛を説くこと能はず。吾人の當面の急

務は此世を基督教化するにあらずして、教會を基督教化するにあり。漸進的に基督教化する教會は、漸次に社會を基督教化するに至らむ。神は吾等が極て良く成就するを得むがために、吾等の爲すべき事業を片々に小分したまふ。其任務は、假令制限せらるゝと雖も、動力的にして且つ徹底的なり。教會は發酵するに及んで、全塊を發酵せしむるに至らむ。吾人の最初の務は、塊に對することにあらずして、酵母に關することなり。神の思想を發表して、基督的奉仕のために、基督信徒の最多數の心情を聯結せしむるものは、實に最も大いなる説教家なりと云ふべし。

### 三、個性の建設

既に建築の様式と釣合とを觀察したるが故に、吾等をして之を組み立つべき活る石材について考へしめよ。全體を考察せるのちには、其部分を研究すべきなり。古き個人主義の過失は、個人を以て始まり、個人を以て終りしにあり。其は明白なる社會的目的を眼中に有せずして、單に個人のために盡せるなりき。基督教的個人主義は、社會的理想を以て始まる。個人が社會の内に、又社會の爲に生存するものなることを認め、且又個々の人格は聚團のうちにあるのみ、能く自ら發育し、且つ完成するものなることを見るなり。活る石材は成長する神殿の壁に組み立てらるゝにあらずんば、其生命を保つものにあらず。説教

者は個人主義者たるべし、然れども依て以て堂宇を建築すべき個々の石材の作成に着手する前、先づ其心眼を以て完成せる建築物を見ることを要す。

この社會的理想に欠けたるがために、個人主義なるものは現今世人の信を失ひしなり。而して瑕疵多き個人主義を拋棄すると共に基督教の個人主義をも拋却するに至るの危険あり。聚合生活は吾等の眼には頗る重要なものなり、やゝもすれば人類の單位に對して興味を失ふに至らんとす。社會的理想は一時個人主義的方法に對する吾人の信念を動搖せしめたり。世論囂々として吾等の耳朵に響く、曰く此世界は救済の目的なりと。曰く社會は全體舉て基督を要求せざるべからずと。又曰く教會は怒濤の上に漂ふ犖然たる個人を拾ひ上ぐる救助船にあらずして、全人類の總體の興味と制度とを包容する主の有

力なる僕なり云々と。是等の堂々たる語句に激發せられて、凡て傳承的方法を信せざるに至り、而して人を専ら群衆として思考するもの少しとせず。群團、階級、民族等のみに注意を惹き、又注意を保つに足るべき大なるものとなす。世人の視線の注がるゝは、一個の富豪、一個の貧民にあらずして、富又は貧にあり。現代人の心に訴ふるに足る問題となるものは、一の資本家、一の労働者にあらずして、寧ろ資本及び労働にあり。多くの指導者及び教師等は、熱心に白、黒、黃、蒼色の人種に關心し、而も是等人種の個々の代表者に對しては左まで意に介せず。かの人類を全く無視しつゝ、而も經濟的組織及び産業上社會上の秩序に關して眼を注ぐものあるは決して珍らしきことにあらず。此處彼處に於て個人を救済するは、瑣々たる兒戲に類せる仕事の如くに觀せられ、而して社會の組織を改造し世界の組織の變革を企つることは、即ち勇壯



にして達見ある男兒の努力するに足る唯一の事業と見做さる。多くの講壇に於ける説教は、ますます非個人的のものとなれり。其説くところは甚だ多く社會問題の論議となれり。會衆のうちなる各個人に對して直ちに基督を主として信奉せよと勸告するは、或種の説教家には筋違の如くに見え、又他種のものには全く無分別の業なりとせらる。現代は問題を好む時代なり、雜誌演劇小説など明かに之を證す。而して講壇も亦この怒號する激湍に捲き込まるべきは殆んど怪むに足らざるなり。流行文學に於て最も多く見ゆる問題は講壇の上にも這ひ上り、而して説教者は自ら之を悟る前に、先づ經濟學の教授、社會學の講師、講壇擔任の記者、社會改良家、宗教的慈善家、現代思潮の文學の講師、又は心理治療術の療者となれり。彼の好んで説くところの問題は、労働組合、社會主義、移民、兒童勞役、小兒裁判所、民主々義、工業

制度、衛生問題、労働と資本、ツラスツとシンデケエツ、工場政策、市政改革、人口過剩、下水問題、家庭労働問題、天然富源保存問題、婦人參政權運動、クリスチアン・サイエンス、及び養老恩給制度なり。彼を圍繞する人々は皆是等のことを論議す、而して説教家自身も亦其意見を發表せざるべからざるもの、如く感ず。個人は益些細のものなりとして遇せられ、此世は愈大なるものとして重せらる。説教者は多數の人々に興味を有すれども個人には然からず、人類の利害に關心すれども、主の日に於て其顔を見る各個人に對しては然からず。

外圍に關する科學上の學說も亦講壇に於ける説教の型を造くるに與つて力あり。人の一生を陶冶するに最も力ある要素の一は、疑もなく、彼を圍む境遇なり。而して科學は此事實を高調し且一般に知らしめたり。説教者は其の教區に於て、外圍の勢力の偉大なるを證するに

足る多くの事實を見たり、而して此發見は、適宜に思慮を加ふるに於ては、正に彼の全き人生觀を變革するに足る。彼は貧民窟に於て人の向上のために努力せしが其効なかりき。彼は汚れたる沼澤のうちにある人を清め救はんことは到底能ふべきにあらずと決心せり。沼澤其物を先づ乾燥すべし。住宅の周圍一哩の間の空氣が有毒の微菌を含むときは、其住宅より疾病を遠ざくること難し。先づ爲すべきことは其空氣を清淨にするにあり。彼は第一に市全般の上に施すべきを感じつゝ、而も各個人を全く忘るゝ誤に陥らんとす。彼は個人的責任の學說を疑ひ、不埒なる生活に對する責めを社會に負はしめんとす。彼にとりては、社會の秩序は罪を犯さしむるものにして、經濟的組織は犯罪者の母なり。彼は曰く是等のものゝ變革せらるゝまでは個人を非難すべからず。此世の構造を變化せしむるにあらずんば、個人を救濟

するを得ずと。是實に時として柔しき心と氣早なる性質とを有する人々を促して、社會主義の多くの障地の一に入らしむる推理の様式なり。社會主義は人を魔するの力あり、是れ大規模にて事を行はしめむとすると、且其說を談するに當つて、情熱あり活氣ある言語を使用するに由る。人其勢力を他人と合するによりて、一瞬間に文明の總ての構造を破壊し得る時に當り、何が故に偶ま個人を其窮地より救ふ爲に勢力を浪費するものあらむや。社會的良心の鋭敏なる説教者が其説教を戰慄の室と變化するもの稀なりとせず。日曜日は彼等に此世の塵物及び腐爛を摘發する機會を與ふ。此世の要求に關する見解と其氣象の燥急なるとは、彼等をして、各個人を忠實に遇する古き方法に耐ふる能はざらしむ。彼等の眼には個人は數ふるに足らざるなり。人とは何ぞや。大風に吹かるゝ藁、此世の戦車の輪縁に身を寄せたる蠅、渺

々として限りも知れぬ海原の一粒の砂、奔馬の如き怒濤の波の泡沫、暫く現じて忽ちに消え失する烟霧に過ぎず。賢明なる(彼等は斯く思へり)宗教的指導者は其説教を社會に向つて爲すべし、其努力を此世の秩序の改造に用ゆべし。

是等の論は頗る尤もらしくして、同情深く且つ良心の感覺鋭敏なる多くの人々を服せしむるものあるは不幸と云ふべし。是れ正しく似而非なる論にして、實際に行ふに當りては講壇の勢力を貧弱ならしむるに至るなり。多くの人々は其説教に個人的の調子を失ひしが爲に、減退し行く會衆に對して説きつゝあり。彼は漠然たる概括論を以て聽衆を冷却し、又其卸賣的の非難を以て會衆の憤怒を招く。若し講壇の上に宗教家的のハムレットあり、其説くところは、自己が救済の爲めに生れ出でたることを察知すべく會衆に一任しつゝ、時代の紊亂を悲

むものあらんか、會衆は憐むべきなり。斯かる輩は彼の面前にある個人を絶えず注視するによりて其錯誤より免かるゝことを得む。説教者にして其眼光を個人に注がず、他に向はしむるものあらば、正に説教者としての能力を失ふべきものなり。個人を最もよく知り最も多く愛するものは、最も徹底し、最も有力に、最も有効に説教するを得るなり。

現代は説教者が其事業に於て個人との接觸を失ふべき時代にあらす。多くの勢力は個人の特性を消磨し、個性を一般の群衆のうちに溶け去らしめんと謀りつゝあり。近世科學の教ふるところの直接の結果は、人の胸裏に寂寥の感を起すに在り。其が宇宙の際限なく曠漠たることを示すや、人をして自ら極めて微なるものなりとの感に沈ましめ、而して希伯來詩人の「如何なれば汝人を心に留めたまふや」との問が、新し

き強味を以て人の唇に上りたるなり。現代に於て、人々は能ふ限り高く自己を考ふべく奨励せざるべからず。彼等は一人一人に對し、人の子よ汝の脚にて起てよと告ぐる主の預言者を待ちつゝあるなり。

現代は移住の時代なり、而して多くの人心は孤獨の感に襲はる。外國人の寄せ来る者年々數百萬を以て數ふべく、而して吾等の國人は、到る處嘗て知らざるほど幾度も其居宅を轉じつゝあり。電氣と蒸氣とは吾等をして遊牧人種と化せしめたり。かゝる人口の不斷の移動には大なる危険を伴ふ。家庭を破壊するは、道德の根底を破壊するなり。人々が群團となつて動くに當りては、個人は其影を没す。都市に流れ入る夥しき人民は、其沸騰する人生の渦中に吸ひ込まるゝなり。村落に在りて頭角を現はせる人も、都市に入りては顧みる人もあらず。村落に於て彼は名士の一人たり、富める銀行家、屈指の商人、郵便局長と

も對談するを得たりき。然れども都市に於て彼は全く無視せられ彼の存在さへも知るものなし。彼若し懲治監にあらんには番號を身に帶びしならむ、然も都市は番號數字の貼札を彼に與ふる勞さへも取るものにあらず。彼は騷擾を起すことなくして監獄より脱することを得じ、然も彼は毫末の顧慮なく都會生活より逃るゝを得るなり。都會は個性に對する巨大の破壊者なり。都會は蒸汽修道<sup>ポウ</sup>、鞭器<sup>リ</sup>なり、個人の特質を碎きて平坦圓滑なるものを化せしむ。説教者の機會は此處に存す。

工業的勢力も絶えず個人の特長を奪ひつゝあり。器械應用は人を工場に群がらしめ、唯多數の手として集り、複雑なる器械の助手となりて商品を製産するなり。彼等は純然たる動物にもあらず、されど又完く發育せる人にもあらず。説教者の機會は此處に存す。商業的勢力

も個性を滅却す。小資本家は消え失せつゝあり。小商店は併吞せられ、而して曾て其名を戸口の上に掲げたる人も、大デパートメントストアに於て一部の支配人として其瘠形の身を現はし、其勘定臺の背後には、數千の人類が未だ會せしことなく、曾て相識ることなき人々の爲に業を執るを見るべし。實業家は會社、シンヂケーツ、及びツラスツに加盟し、各個人は其ますゝ膨脹する團體のうちに深く深く没入して影を絶つなり。會社は心靈を有せずとの語は今や格言となり、各個の社員的心灵も全く人目に映せずなれり。説教者の機會は此處に存す。

組織せる慈善事業すらも個人の特性を没却すべき傾向あり。慈善事業家は或時には單に科學的現象として社會學的状态に興味を有す。彼等は興味ある社會的生産物として貧窮醉酒結核等を研究す。彼等は數冊の統計を發行し、缺乏と苦難の渺茫たる海面を鳥瞰圖に作る、而

も一個の破壊されたる家族若くは一個の寸断せられたる人生を顧みることなさざるなり。多くの善人は今や大洋に興味を抱き、而してかの静かに流ては大海の水となるべき滴水に心を注がんともせず。説教者の機會は存す。

吾等の問題を増加し、且つ人生悲劇の暗黒を深刻にするところのものは、實に此個人的接觸の缺乏なり。吾等が社會を警戒すべき事實の一は、到るところ個人的責任の感の皆無なることなり。労働者の社會に於て、何人の行爲たるかを確かしむるに由なき暴行の屢々犯さるゝあり。労働組合に聯れる人々は、時々單獨にては之を行ふ考すらなきとをも決行するなり。實業界に於ても、不名譽なる不法行爲幾度か行はる。之れ明かに何人も其責を負ふものなきがゆゑなり。會社又は組合に身を投ずる人々は、單獨にては屈從せざるべきとをも成し遂げ

得るが如し。個人の特性の凋むところに、個人的責任の感は減ぶるなり。獨自一個の面目を活潑に鋭敏に保持せしむるは、説教者の事業なり。「君は何處にある、君の兄弟は何處にある」。是れ即ち宗教の教師が敢て尋ねべき最初の間なり、而して彼の達し得る區域の何人も自己に問へるものなることを知るに足るべき語調を以て問はざるべからず。神と人とに對する個人的責任は、凡ての時と處とに通じての論題なり。人若し自己の價值を見失はば、當に價值なき生活を送るべし。彼等若し自ら數ふるに足らざる零なりと思はば、其行動に關して更に心を勞することなからむ。新しき國に來れる移民のうちに有り勝なる道徳上の墮落は、多くは個人的自重の念の廢頽せるによるなり。故國に於ては、彼等は相當の地位を有し、又廣く社交上の名聲を保つ、而も新土に於ては人類の大洋に於ける渺たる一滴水に過ぎず。巨浪の頭

より日光を反映するか、或は海底の汚泥のうちに沈むか、そは固より關心するところにあらざるなり。大都會に於て道義の弛廢するは、職として個人尊重の感覺の碎かれたるに由る。凡て世界の大都會にある幾千萬の男女は、人生の高尙なる事物を固く把持する能力を失ふ。是れ神の外は何人も彼等を注意するものなきに由る。地上には彼等の心靈を顧慮するものあらざるなり。人々の群衆のうちに没入するや直ちに教會に遠かるに至る。説教者の機會は此處にあるなり。世人が階級、群團、民族等を考へ且つ説きつゝある時、其眼を各個人に注ぐは、基督の使者の本務以上の務にあらずや。

實際説教者も自ら亡びんとするの危険あり。凡ての細流は河流に吞まれ、凡ての河流は注いで湖水となり、大洋となる。世には出版物の海あり、教役者は容易に之に吸ひ込まれる。行政事業の洪水あり、彼等は

屢其泥中に溺る。論題と疑問の大洋あり、講壇の効力は其濁水のうちに沈む。教役者が高遠なる空想に耽り、又は幻想的事業に熱中して自らを失ふこと難きにあらず。「社會」「人類」「文明」等の語は、人を惑はすに足る妖言たり、而して漠然たる自明の理、限りなき概括、十把一束の否定、及び其輪廓が深く霧のうちに没せる漠々たる義務に對する一足飛の勸告をなすに於て現代よりも大なる誘惑あることなし。世にアトラスに類せる説教者あり、彼等は世界を其掌中に自由にし得べしと考ふ。然れどもアトラスとは異にして、彼等の顔面に心配と失望の色見ゆ。彼等は世界を其双肩より卸して之を神の心に移し、而して彼等の教會に集り來る各個人の心靈の精神的發達に對して十分の責任を負ふことに安んぜば、彼等の爲にも又基督の爲にも更に幸なるべきなり。個人が説教者を要するが如く、同じく説教者も個人を要するなり。

各個人の心は生命の大著作中の一頁なり。説教者は能く之を讀まざるべからず。教役者が瀕死の人と共に一室に籠るにあらずんば、いかで死の意義を知るを得んや。彼若し幼兒の病床の傍に立ち消え行く病兒の呼吸に悶ゆる母の心臓の鼓動を感せずして、いかでか苦悶の最高度を解するを得べき。彼若し貧しき寡婦が其戸口に佇む狼の爲に窘めらるゝを見ずして何に由て貧窮の苦味を知り得べき。良心の呵責に耐へずして苦悶するものを目撃して、始めて彼は悔恨の痛切なるものを感じるを得む。精神的革新の際に於ける顔色を見て、理解し得ざる平和に關して一層良く説教する事を得べし。説教者が此世界の何たるかを知るは、各個人の心靈の經驗に於てするなり。人生の感奮は或る個人の精神の歎歎より來る。人性は書籍若くは群衆のうちに於て了解し得べからず。人心の秘密の相交通するは、一の心が親しく

他の心を壓するときにのみ行はる。説教者が自らを個人の生活のうち  
に引き下ぐるにあらずんば、彼は冷酷にして、其説教は枯淡蠟を嚙む  
が如けん。教會の事業が最高の説教に缺くべからざるは此理由に基  
くなり。説教者にして教會の義務を怠るものは常に失敗者なり。彼  
等は自ら損するところ多く、其教會の損するところ亦更に大なり。彼  
等にして雄辯家ならんには多額の聴衆を引着けることを得べしと雖  
も、彼等は最も深く、且つ最も永久に存する事業を爲すものにあらず。  
説教者が時として不自然なる説き方をなす所以のものは、十分親し  
く各個人に接せざるに由る。極て自然に説くことは説教者の大望な  
らざるべからず。反抗せしむる音調、若くは人の氣に障るが如き語調  
を用ゐて、其説くところの使命の力を減ずるは不可なり。彼が講壇に  
立つて語るは、宜しく紳士が要件に關して其友人に語るが如く述ぶる

を要す。彼若し家庭に於て決して聽かざる語調及び社交界に於て用  
ゆれば笑を招くべき聲調を用ゐるに於ては、眞理を説くべき機會を害  
すべし。基督教の講壇は奇妙にして、此世のものならざる諸種の音調  
の發育せらるゝ温室なりき。各種の鼻聲、もろもろの諧音の聲調、さま  
ざまの怒の咆哮、及び諸種の惡みの叫び聲などは、講壇の名を高くし、不  
信の徒をして神聖を瀆すに至れり。是等聲音上の怪異亂暴の原因は、  
説教者が各個人に語りつゝあることを忘れしにあり。彼は世界に對  
して説きつゝありと思へり、是れ彼の無暗に叫ぶ所以なり。彼は都市  
に説教しつゝありと考ふ、故に彼は哮ゆるなり。彼は群衆に對して演  
説しつゝありと想像す、而して彼が聲音上に體裁振るは此愚かなる想  
像より來るなり。彼は其眼を個人より避く、而して此大間違は直ちに  
其辯舌のうちに現はる。彼は講壇より降り來るや否や自然的に談話



す。最も横着なる講壇上の咆哮者若くは偽哭者は、講壇の階段を下り終るや直ちに人間の如くに語る。彼は個人に語りつゝあることを覺らば、其病弊は癒やさるべきものなり。彼をして講壇の上に於て之を記憶せしめよ、然らずば彼の辯舌上の罪惡はアラビア人の如く天幕を張るに至らむ。説教者は社會、人類、若くは文明に對して説教するなかれ、彼等は自己と同じき人々に説教するなり。説教者は個人と面接するに於ては音調は眞率にして、其變化は眞實に、其語體も自然になるべし。是れ即ち修辭上の病患に對する治療劑なり。世には修辭上の誇張并に辯舌上の誇張あり。想像力ゆたかにして且つ巧に言語に通曉せる説教者は、其眼を個人の上に注ぐにあらずんば、修辭上の誇張に陥ること必せり。個性は説教者の生命保管者なり。彼は個性の爲に不自然より救はる。自然の語格は明白なる語格なり。説教者の第一の

務は自らを容易く領會せしむるにあり。彼は凡て説教の態度に於て其聽衆と親しく相交ることを要す。而して斯くあるためには兩脚を以て地上に立たざるべからず。信徒の多數は空中を飛翔することを得ず。若し説教者が高く雲中に飛ばんには即ち獨り自ら飛ばざるべからず。雲霧のうちには説教者にとりて悲哀の里なり。高飛する説教者は壯年者の喜んで耳を傾くる説教者にあらず。何れの時代にても、幼年者は驚を抱いて坐す、されど思慮あるものは憂ふ。我等の主は常に地上に立ちたりき。彼の最大の説教は熱誠なる談話なりき。彼は常に直に個人の肺腑に迫る。彼は曰く「我に従へ」。

説教者の不斷の清新を確かならしむるものは、個人に對する忠實にてありき。多くの説教者は其單調なるために暫くにして容れられずなるなり。彼等は其題詞の性質に於ても、亦之を取扱ふ態度に於ても

共に變化を欠く。彼等は説教を凡て其年齢、其性、其精神上の發達等決して變化なき想像的存在者に對して準備せられたるものゝ如し。其聴衆は單に彼等の眼には人類の巨塊に過ぎず、而して此活ける巨塊に對して説教するなり。然しながら單調を避けんと欲する説教者は、精神上より其會衆を幾個の團體に區別し、而して更に是等の團體を各個人に分解す。各團體は適宜の時期に於て其食糧を受くるを要す。使徒パウロがクレテの人々の間に於ける事業に關してテトスに書き送るや、一の要目には老人に必要な教訓の種類を示し、他の要目には青年の爲に要するものを授け、老婦人の爲に他のものを、妙齡女子の爲に他のものを、而して奴婢たるものゝ爲に更に他のものを示したり。老人の誘惑とするところは青年の誘惑にあらず、男子の問題は婦人の問題にあらず。主人は此點を主張し、奴婢は他の點を重んず。パウロは

是等の差別を認め、各階級をして各其能力と其必要とに應じて教化を受けしめんとす。一人能く普く各人に説教するを得ず、故に斷えず且つ鋭く區別するを要す。眞理は其要する人々の性質に應じて片々に切斷すべし。會衆のうちの孰れの團體も飢餓に陥らしむべからず。一人の心靈も説教者の眼に觸るゝことなくして地に落ることあらしむべからず。

説教者を基督信徒として存せしむるに大なる力あるものは個人なり。個性の改造のために努むる説教者は罪の實在と能力とを信すること難からず、且又救主として基督を信する信念を失ふ如きことある。政治法律の力に限りあるを感じ、感化萬能藥の無効なることを覺るは、實に罪の束縛のうちにある人と素手にて取組むるときにあり。彼は此時初めて罪惡の秘義に面す、而して其福音を耻とせず、蓋し是は信

するものを救ふ神の能力たることの赫々たる證據を有すればなり。かの全世界を引き揚げんとする漠然たる大望を抱く輩は、屢基督の人格に關して空漠なる思想を有するに至る。一人の心靈に無量の價値ありとの確信を失へば、やがて一の親しき教主の必要を感得することなきに至らむ。個性の威嚴の消えゆくところ、神聖なる人格の榮光も薄らぎゆくなり。此世界の根本的困惑が、神に背きて反抗せることにあらずして、誤れる經濟的機關なりと信ずるときは、耶蘇と稱する者に對して熱情を捧げて奉仕すると容易にあらず、何となれば彼は人々を罪より救ふを目的とすればなり。世には善き心懸の人にて口に多く基督教意識、基督教主義、基督教感化等を語り、而して個人的基督を敢て其思考の背景に退くるものあり。人若し一般の社會を改良するを目的とせば社會的勢力及び人道的感化に信賴するを可とせん、然れども

單に一人を救はんと努めば是非とも基督にある全能の神に身を投せざるを得ざるべし。

個人の爲に働くは、單に信仰を維持するに必須欠くべからざるのみならず、又希望の焰をして炎々と燃えしむるに大切なり。説教者が自ら失望より救はるゝは、一個人を見出すに由るなり。群衆は常に協同するものにあらず、或時は却つて恐るべきものなり。我等はピリポが五千人に面し而して食を供する方法を知らざりしに類することあり。其場合に光明の輝き、高き期待を以て心情の躍るは、唯我等の會衆のうち一人彼は未だ若輩たるにもせよを發見し、其材幹を擧げて基督の掌中に献げ得るときにあり。世界全體を改善せんために働くものは、終には落膽すべきなり。變化は遅々たり、進歩の度は極て小なり、説教者は、幼時に於けるよりも聊か改善せる此世界を見て死する外な

けん。不信者は彼に嘲罵の間を發して曰く、「何處に彼の來るてふ約束の成就するありや」。然れども個人の心に福音を齎らす人は賢哲の筆になれるものよりも遙に信するに足るべき證據の書を常に有するなり。説教者が畢生奮闘の失意と落膽の間に處して、能く其胸裏に壯快の歌をたゞへしむるものは、教會の椅子に倚れる救はれたる人々の顔色なり。個々の人生の變改は以て耶蘇の活きて現存せる勢力なることを證す、而して總ての膝は何時かは彼の前に跪くべきことを容易に信せしむるなり。使徒等は勇敢なる心を以て、怒氣と殺氣とに満てるエルサレムに向ひたり、彼等は一の喜悅に充てる人を指して「彼の名を信するにより、其の名は此人を強壯に爲せり。是れ爾等の見又知るどころなり」と語るを得たるが故なり。耶蘇の説教は、人をして「我曩には盲なりしが今は見ることを得」と叫ばしむる限り、克服し得べからず。

説教者は唯其説教によりて悔改せる人々の顔面に、惠ある神の智識の榮の光を見るを得ば、忍耐を以て勤勞し希望を以て死に就くことを得るなり。

個性は亦愛を養育するものなり。一人は能く一般人類を愛することを得べし、然れども其愛は氣力なく薄弱なり、火焰を發し、人の心情を燃やさずんば止まざるところの愛にあらず。熱烈火の如く教會全體を熱するところのものは、一の心が他の心に接觸するときにあり。

計畫や運動に興味増進して然も心情の灰の如く冷却し行くものあり。愛は福音を説く人に必須欠くべからざるものなり。而して愛は個々の心情及び生活と接觸を重ねるに従つて養はれ淨められ且つ光輝を加ふるなり。

さらば説教者をして個人を求め且つ發見せしめよ。宮殿の光榮は

之を建造せる材料の性質によりて判断せらる。石材は型に従ひて砍り、且つ磨かざるべからず。而して後個々に注意して之を其地位に置く。醜惡なる材料を以て美麗なる教會を建つること難く、同胞の情念なき基督信徒を以て榮光ある同胞を建設するを得べからず。萬事は總て信者各自の性格に依るなり。先づ爲すべき事は彼を其朋友より隔離し、彼を神と共に一室に閉づるにあり。彼と永遠の存在者との間に正しき關係を成立せしめざる可からず。心靈が十分に社會に對する責務を感得するためには、天父と自らとの孤獨の關係を感せざるべからず。永久にして且好果を結ぶ博愛主義の基礎となるものは、各個人が大能者に對する責任の感なり。説教は此點を十分明白になさるべからず。斧は樹の根に加ふべし。人の動機と衝動とを正當に爲すべし、彼は再生せざるべからず。面白く社會の罪惡と人類の期望と

を談ずるは易し、然れども説教者の要務は各個人の内部に眞理を注ぐにあり。

人は基督信徒の生活に着手したる以上、自己を建設者として觀るの訓練なかるべからず。彼は其心靈の神殿を形成するものなり、而して建築の事業は斷えず進捗せしめざるべからず。パウロの語る如く彼は榮より榮に進み、後に有する品性は其以前の品性よりも優りて一層の光輝を發す。ペテロの語る如く、彼は信仰に徳を加へ、徳に智識を加へ、智識に樽節を加へ、樽節に忍耐を加へ、忍耐に敬虔を加へ、敬虔に兄弟の睦を加へ、兄弟の睦に愛を加へて熱心に勤む。多くの教會員は恩恵のうち、若くは基督の智識に於て成長せず、是れ教役者が彼等を開發せざるに由る。精神上の生活には始あり、順次の段階あり、過程あり、危機あり、誘惑あり、困難あり、病患あり、失錯あり、成長の法則あり、而して説

教者は凡て是等のことに關して熟達するところなかるべからず。講壇には説教をなすものあるにも拘はらず、多くの會衆は牧者なき羊の如くに迷ふ。彼は普通の眞理と世界全體のことに興味を有す、されども精神發達の法則を解せず、又開進する心靈の必要を充すに足るべき教育の法を知らざるなり。

耶蘇に従ふものは何人も教會及び社會に於ける正義の積極的勢力たらざるべからず。之を貫徹せんために説教は建設的ならざるべからず。人々は何を爲すべからざるかと云ふことよりも寧ろ何を爲すべきものなるかと云ふことを教へられざるべからず。善事を爲すべきことを學ば、惡事を爲すことを止むるなり。若し彼等が靈によりて歩むものとすれば肉の慾を充たすことなからむ。多くの出版物は惡事を爲すものを常に罵倒す、而して教役者にして無暗に他を非難す

る精神に捕はれたるものも亦尠しとせず。然れども害惡は、眼を惡しき事物の上に注ぐによりて除かるゝものにあらず、心を善事に轉するによりて覆すことを得るなり。世に德行若くは賞美すべきことあらば、いづれも吹聴に値ひするなり。説教者は自ら制して大言壯語を慎み、靜かに善行に於て人物を建設する業に盡すべし。ミルトンが曾て指示せるが如く、一人有徳の士の發達の爲に盡すは十人の不徳漢を制抑するため努むるに優れり。世人が廢棄せられかすと希望する行動と流行に對して、壯烈なる撲滅運動をなさむよりも、寧ろ價值ある事物に興味を有するやう一人を訓練するは賢きことなり。是實に諸君が現代の害惡若くは世俗の歡樂に抗して、二十回の反對説教を爲すべく誘はるゝに當つて心に銘すべきことなり。

基督信徒は各其うちに有する天賦の良能を開發するやうに鼓舞せ

らるべきなり。各人の靈は獨特無比なり。是の故に各人の自由は言ふに言はれぬほど尊貴なり。人格の權利は決して説教者の爲に蹂躪せらるべきものにあらず。説教者は凡ての基督信徒に對して、同一に考へ同一に感じ同一に働くべく期待すべからず。説教者は又彼等が凡て同様に悔い改め、同様なる感情的經驗を経、同様に基督教信條の各句の眞理を信せんことを要求すべからず。教會員たるものが説教者若くは教會役員の最も古く最も敬虔なる人々と同一に考へ、感じ、又働くを要せず。教會は須く多種多様なるべし。各種の氣質と性格、各種の發達の程度の人々、各種の修養の人々を包含する襟懷なかるべからず。諸派の思想と諸種の勤務に對して自由を有せざるべからず。各種の基督教徒を一定の鑄型のうちに碎き込まんとするは、各人彼にありて自由ならむことを欲したまふ基督に對し罪を犯すものと云ふべし。

説教者にして自己と説を異にする信徒を目して、直ちに聖靈を潰がすものとなし、此世に於ても來世に於ても其罪の赦免あることなしと思惟するものゝ如きは、偏狹にして人類の精神的教育の指導たるに足らざるものなり。自ら思考する能力あり且つ彼と異なる意見を保つに足る品性を有する男女に對し教を説く説教者は却つて之を喜ばざるべからず。説教者は各人をして独自の骨頭を有し、自己獨特の光榮を發揮せしむるやう奨励すべし。彼は亦各自の血管のうちに流動する潜める勢力と美麗とを發現して爛熳たる花たらしむるに足る感化力を教會各員の周圍に遍からしむべし。抑も教會が其最も豊富なる生命を發見して其最も廣き奉仕をなすに足るに至るは、道德的品藻の多樣なると精神的到達の種々なるに由るなり。大教堂の建造に當り、建築家は諸種の模型と結構の材料とを使用する也。

教會の各員は同胞たる品藻と責任の感とを有するやう訓練せらるべし。彼は直ちに同胞團體のうちに置かれざるべからず。諸君は人を硝子卓上に置いて書物により同胞たる道を教ふるを得じ。人は同胞らしく生活するによりて同胞たるを學ばざるべからず、人は同胞のうちにおいて唯能く同胞らしくなるを得るなり。一人一人の新しき悔改者を同胞の仲間に入れて能く彼を保護するは有力なる説教者の事業たり。同胞團體は同胞らしからざる人々によりて造らるべからず。同胞團體中一人の同胞らしからざる人あらば限りなき混雑と誤謬とを爲すなり。同胞たることは天賦の能力にあらずして努力して到達するものなり。多年孜々として勉め勵みて達し得るなり。同胞らしき意向を有するを以て足れりさせず、其精神は能く訓育せられ開發せられ而して鍛練を経ざるべからず。同胞としての責任と義務

を學習し且實行せざるべからず。教會を神殿として思考することを好みし使徒は、又各個人の心靈を神殿として考ふるを好む。人格は神の現在なり、各個人は量るべからざる價值を有す。愛を四本柱として人格を建設するは説教者の事業なり。若し建設せずんば諸君は建築家にあらず。諸君若し人物を建設せずんば、諸君は理論家なり、街學者なり、講釋師なり。醫師の職務は書籍を知るにあらず、人を治療するにあり。諸君の最上の職務は説教を作ることにあらずして品格を建てるにあり。神の宮殿に一の特別な柱を建設し、其壯麗なる恰好と雅致ある仕上のために神の宮殿の全體に一層の光榮を加ふるに至るを以て、無比の榮譽とせざる説教者は、勝をうる者をば、我神の殿の内の柱となさん。此より再び出ることなし。我また我神の名と吾神の京城の名を之に書さん（黙示録三〇十二）と宣へるもの、心と一致せるも



のと云ふべからず。

いづれの微細なる部分にも特別の注意を拂ふは建築師の態度なり。建築師は其理想は共同主義にして、其方法は個人主義なり。現今の石工は初代の希臘人の風に従ひて一時に一石を仕上ぐ。其建築物の大か如何を問はず、いづれの石も各判然たる念の入りたる注意を與へらる。吾が煉瓦を積む職人は古代の埃及人の慣習に従ひて一時に一煉瓦を積む。煉瓦の數の何千萬たるに論なく、一枚一枚の煉瓦は各別に取扱はる。世界は幾多の發明に富むと雖も未だ多くの煉瓦を一時に積む器械の工夫せられて、傳へ來れる方法を不用ならしむるに至らず。大工は一時に一本の釘をうつ、如何ばかり其請負は大にして其仕事は切迫するとも彼は之を改めず。人の神妙なる智巧も未だ久しく用ゐ來れるところの一時に一釘をうつに優れる手段を發見せず。新時代

の奇跡を行ふが如き驚くべき器械に圍繞せられながら建築師は依然として古き方法を固執するなり。若き説教者よ建築師の許に行け、彼の方法を考察して賢明なれ。

建築師の社會的目的は其方法に於て個人主義たらしむるなり。着眼に於て共同主義たる彼は、實行に於て個人主義たらざるを得ざるなり。建築は幾多の材料を組合す仕事なり、而も唯其組成的部分に注意を加へて仕上ぐるによりて成功するなり。建築物の全體は自から建築師に其各部分を如何に處理すべきかを指示するなり。各部は他の部分に應じて形成せられざるべからず、何となれば部分は凡て全體の良き釣合を保つに適せざるべからず。個々の石材に努力を籠むれば籠むるほど其建造物は高尚になるなり。パルテノン建築せられしとき、其大理石の片々の如何に小なるものと雖も天才が其完全なる細

工を施さざるものあらざりき。

説教者は建築師なり、而して凡ての建築師と同じく大體を概観せざるべからざると共に、又細目を視る眼を有せざるべからず。彼は屢竣工せる宮殿、即ち天より降り來りし、成長する理想を凝視せざるべからず。而して個々の活ける石材の能力を考察せざるべからず。其の力と美との貢献によりて、完き全體の壯麗を増すに至るなり。此世界は實に救の目的物なり、されど一時に一人を救ふによりて終に此世界は救はるゝなり。人類は群團に於て一時に基督信徒と爲り得べからず、基督教會は其の最初の蹟く岩石なり。人類が初め群團となりて基督教會に入り來れるは、コンスタンチン帝の時なりき。而して其群團に於て入り來れると共に、教會史上長き日蝕の第一期は初まりしなり。教會が功を收むるに急にして、人々を部落として迎へ、又大隊としてバ

プテスマを授けたるがために、基督の目的は限りなく遲滞されたり。サタン<sup>○</sup>の王國の王位が動搖し、而して教會が征服者の歩調を以て堂々として終點地に向ひて濶歩するは、唯教會が一時に一人を取扱ふことを喜ぶ時のみにあるなり。教會の着眼は常に社會的ならざるべからず、されど其方法は個人主義を除きて他にあることなし。社會を改造するは教會の事業なり。然れども社會は個人によりて成る。而して個人の品性は社會の品性を定むるなり。輿論を高むるは教會の天職なり、然れども輿論は畢竟各個人の言論に過ぎず、而して社會を支配する言論は其市民の品性によりて決するなり。外圍は人生を陶冶する有力なる要素なり、然れども外圍は畢竟人の心靈によりて成るものなり。物質的境遇は單に人の心靈の創造に外ならず。外圍を變革せんためには心靈の改革なかるべからず、而して心靈は一時に其の一を改

造せらるゝのみ。説教者の最上の事業は心靈の變革にあり。彼若し轉じて他に向へば、人類の最も要するところの奉仕は成し遂げられずして残るべし。説教者若し此世の構造を變革するに熱心ならむには、身を献じて一時に一人づつを基督に於て神に導き來るの事業に熱中すべきなり。

是れ實に使徒ペテロの方法なりき。彼はエルサレムに於て多くの跛者の一人を手づから助け、以て社會改善の事業を始めたり。一人の強者の手が歩行すること能はざる一人の手を執るは、教會史の大冊の第一頁の口繪なり。かの美しい門に於ける美しき行は基督教的個人主義の課程を教ふ。ペテロが異邦人の世界を迎へんがために其門を開けるとき、彼は一人即ちコルネリオの爲に開きしなり。異教主義は群團に於てバブテスマの志願をなさいりき。唯一個人のみ迎へられ、

其上に聖靈の賜物を與へられたりしなり。

此は又使徒パウロの方法なりき。其夢のうちに彼に訴へしは全歐洲にあらずして、たゞ一人の寂しき歎願者なりき。彼がビリビに達せるとき、其福音を宣傳せるは、其市に向ひて爲せるにあらずして、祈禱のうち信仰を失はざりし數名の下層の婦人に對してなりき。パウロは一婦人リディアの心を通じて新しき大陸の中心に其途を開けり。彼の使命は各個人がイエスキリストにありて完全になり得ることを各個人に告げ又教ふるにありき。一人の貧しき逃走せる奴隸オネシモの爲に祈り且つ働くは價值あることなりき。一人の悲惨なる精神錯亂せる女子の束縛を切り放ちしは忘却すべからざる勝利なりき。パウロの細微なる點に行届く天才は其書簡のうちに歴々として見ゆ。彼は個人に對して非凡の眼識を有したり。彼が祈禱の音樂となりし

ものは、其個人的に知れる男女の名にてありき。而して寂寥と危難の際に於て彼の心情を慰めたるものは、共に勞し共に苦み共に勝を得たりし特別なる人々の記憶なりき。其は實に盡きす湧き出づる感恩と情愛の噴泉を穿つなり。パウロの人物は左の語句に躍動するを見るべし。「イエスキリストに在りて我と共に勤むる者なるブリスキラとアクラに安を問へ。」「我が愛する所のエバイネットに安を問へ。」「我儕の爲に多く苦勞せしマリヤに安を問へ。」「我と共に囚人となりし我親戚なるアンデロニコとジュニヤに安を問へ。」「

是れ主自らの方法なりき。彼は鋭く且つ微細に徹する眼識を以て人々を驚嘆せしめたり。「何時爾は吾を見たまひしか」とは多くの人の唇より迸れる叫びなりき。一人の婦人は自ら群衆のうちに身を潜め得べしと想像したりき。神殿に於て小錢二つを投入せる一人の寡婦

は混雜のうちに於て目に觸るべしとは夢想せざりき。彼はベテスダの池に於て殆んど四十年間何人にも見られざりし一人の貧しき病者に眼を注げり。彼の心は階級を征服すべく決せり、而して彼は怠りなき注意を一人——ニコデモ——に拂へり。彼の靈は群衆に對して懊む、されば自ら井戸の傍にて獨り淪落の婦人の爲に心を勞す。彼は地球上到るところに達せんことを望めり、而して一人の心を變革せしむることより出立せり。其社會的理想は個人の爲に働く熱心を加へしむ。彼は心のうちにエルサレムを思ひしがゆるぎに盲目なる乞丐の一人の生命に光を與ふることを喜びとせり。

個人の心靈の極めて貴重なることを明かに觀たるは、彼の眼中常に世界を見るが故なり。社會の制度は不法に滿ちたり、而して人々は之に打撃を加へんことを彼に請へり。彼は少數の田舎漢の精神を變革

するによりて之に打撃を加へたり。政體は腐敗せり、而して人々は之を覆へさんことを彼に懇求せり。彼は數名の市民の理想を高むることによりて之を顛覆せり。經濟組織は不正と壓抑とを働けり、而して人々は彼が其劍の尖頭を之に加へて破壊せざるがために彼を憎みたり。彼は其名を數名の弟子の心中に銘して以て其死刑宣告に記名せり。パレスチナの外に諸國民は暗の中に悲みに沈めり。彼は之を觀たり、而して之がために熱心身を献じて十二人を造り上ぐるに盡しぬ。勿論此世界は彼を偏狭、暗愚、發狂、惡鬼につかれたるものなりと稱せり。然れども彼は其方法を終局まで貫けり。彼が畢生の事業は失敗の如くに見えたり。彼が十字架上死刑に處せられしとき、ユダヤは鄙吝にして、サマリヤは昏睡し、ガリラヤは俗化し、恰かも彼が曾て輝ける容貌もてナザレの會堂に於て最初の説教をなせるときの狀に同じ。彼が

十字架上「我が事成れり」と叫びし時は、彼がバプテスマを領せし際天開くるを見しときと同じく、ロマ帝國は殘酷にして諸國民は神より遠かれるものなりき。然れども彼は喪心若くは挫折して死せざりき。死に臨んで曰く「喜び勇め、我已に世に勝てり」と。當時此世界の秩序は明かに變革を示さざりき。然れども此處彼處に於て人心は彼の理想、即ち神は其凡ての子等を一人々々心に留むる愛と犠牲との神なりてふ理想を獲得するものあり。之を以て彼の靈は満足したりき。此神の理想に燃ゆる少數の人々は能く社會の空氣を一變するを得べし。而して若し時間を與へなば彼等と彼等の後繼者とは全世界の組織を一新すべきなり。

基督教は同胞團體の宗教なり、而して又一人の宗教なり。同胞の中にあり、且つ同胞の爲に活くる一人の宗教なり。基督教は一の羊、一の

貨幣一の少年の宗教なり。其腕を是等の小さき者の一人の周りに擴げて之を抱く宗教なり。悔い改むる一人の罪人あれば天使爲に喜ぶを聞く宗教なり。各自が獨り神と密室に於て交る宗教なり。而して又各自單獨に審判に臨まざるを得ざる宗教なり。神の子戸外に立ちて、視よ我戸の外に立て叩く。若し我聲を聞きて戸を開く者あらば、我その人の所に就ん。而して我は其人と偕に、其人は我と偕に食せんと語りたまふ基督を描く宗教なり。

是れ又神の方法なり。彼は個性化せる神にていませり。彼は一羽の雀をも心に懸けたまふ。各人の頭髮も皆數へらる。吾等は一人づつ此の世界に來れり。搖籃と墳墓との間、吾等は唯おのおの兩脚の跨るのみの途を辿りつゝ歩む。吾等は一人一人永遠のうちに過ぎ去るなり。神は各個人を作り上げて之を指導する事業を喜びたまふ。科

學は吾等に告げて、生命は最初膠質の如く分化せざる集合物として、吾等の遊星に現はれしといへり。然れども凡ての勢力は最初より絶えず分化と複雑の方向に働き終に徐々として個性の解放を見るに至る。個性の發現と共に新しき奇跡は初まれり。個性のうちに於て、生命の王は奇跡に奇跡を加へ、光榮ある時機に當りて人の人格は現はれ來れり。人格は最初幼稚、不完全のものにて、其稟質は凡て胎子の如く發育不備のものなり。人類歴史の初期に於て、個性は部落のうちに没し去り、國家のうちに没入し、制度の生命のうちに併吞せらる。然れども各時代を通じて増加しつゝある一の目的あり。而して個人は漸次に其智慧及び體格成長し、終に基督にありて此世界の主權者に進むなり。歴史は個性が苦悶を嘗めつゝ、而も抵抗しがたき力を以て進み、神の恩恵によりて彼のものとなる長き戯曲に外ならずして何ぞや。結合せ

る勢力を發達せしめず、各個人の全き自由と權利とを庇護せざる集合主義のいづれのものも失敗に歸すべし。進化は多くの方面に於て其絶頂に近づけり。されども人格の進化は尙歩を進めつゝあり。吾等の然かあるべき理想は未だ現はれず。吾等は唯彼の如くあるべきを知るのみ、彼のうちに又彼の爲に吾等は造られたるなり。彼の父は個々の人の爲に久しく働きつゝあり、而してイエスも同一の事業のために其身を靖献せり。彼は常に「一人の或る人に對して始む。彼が吾等に告ぐるところに曰く、我に従へ」。

神は人の人格を建設しつゝあり。是れ又吾等の業なり。吾等は彼の同勞者なり。大説教は靈性の内に潜める勢力を自由ならしめ、豊富にして効力ある人格を造り上ぐるにあり。凡ての大説教は均しく此點に一致す、彼等は其説教によりて材幹に充ち意志堅固にして、而して

神の如き人物を造る。教會が此世界に與へ得べき最大の贈物は、其内にイエスの心を有する十分發育せる人物なり。説教者としての成功を量るに教會の會衆の多少を以てするなかれ、是れ畢竟目的もなく又効力もなく社會の海中に漂ふ大なる宗教的水母たるに過ぎず。唯眞の成功の尺度は信徒たる個性のうちに發達せしむる人格の高さと廣さの如何にあり。基督信徒たる同胞團體のうちに建設する個々の同胞的精神、奉仕的行爲、基督的性格の如何にあり。

## 四、氣分及び氣質の建設

人々を個別に考察する必要を述べたれば、進んで今より聚團として觀察せむ。基督信徒の會衆は人類の一の單位たり、而して或る意義に於ては一の心靈を有すとも稱し得べし。會衆中の各員は、驚嘆すべく且つ比類なき一の合成的の性格を造るために、個々別々の性格を寄與す。一の力が各個人の心より發し、其相異なる力が共に相抱擁せるとき、他の高き力の形を構成するなり。一千人の會衆は一千の個人よりも更に優れるものなり。人々相集るときには或る潜める勢力放射せられ、思考し感動する能力強くなりて、彼等のうちに現出す。二人若くは三人の集れるところには、生命の主は、孤獨の心靈と共に在さざる

方法を以て存在したまふ。二三人祈禱に於て一致するときには、單獨にて祈るときに達し得ざる程度に於て神は感應し給ふ。是の故に教會全體と共に又教會全體の爲に爲すべき事少からず。會衆は明かに一の性質を有す、而して又其各員の如く特徴を有す。説教者は此性質を陶冶せざるべからず。其陶冶の作用は公衆禮拜の時に於て其尤も肝要なる假階を通過するなり。説教者は單に教訓者たるのみならず、又品性を形成する人たり、品性に傾向と筋力とを與ふる氣分及氣質の製造者たり。彼は建築師なり、而して其職務は心意の構造を作るにあり。彼は半ば其説教により、半ば神に似たる性質を育成する爲に神に命ぜられたる他の手段によりて其任務を盡すなり。理想は會衆の中に於て彼等を變革する力を有す。而して或る態度と動作も亦同じく之を有す。説教は常に智力のみならず、本能と情緒と聚團即ち心情と稱



する者に達せざるべからず。若き説教者は常に智力を過重する虞あり。彼等は自ら理想に渴し、而して理想を弄ぶの術に慣れて、凡ての思想よりも深邃なるところに潜み、永久の事業を爲さむと欲する宗教上の指導者が常に信頼せざるべからざる心靈の偉大なる感動力を見失ふと稀ならず。純正にして活ける禮拜は説教者が何れも其教會に切望するところの者なり。然れども説教者は何れも禮拜の活ける水の噴泉を開く事業に熱中せず。若し尙ほ讚美祈禱が信徒の唇に唱へられ居れば、是れ法則に従ひて養はれし豊富なる内的生命あるが故なり。説教者は此の法則を知らざる可らず。説教者は其會員等が善事に饒かなれかしと望む。されば神の爲に勤めんとする衝動は開放せられ、又旺盛にせられざるべからず、而して此衝動は心情の奥底に深く其根を有して成長するを要す。多くの説教者が功を收むること少きは深

く奥底に徹せざるによるなり。彼等は智力を培養す、然れども情感を刺激せず。彼等は論理の祭壇に犠牲を献すれども、神の設け給へる情緒の祭壇を忘るゝなり。彼等は義を談じ法を説けども、衷情より神に對して謝恩の讚美を歌ふの訓練を與へざるなり。彼等は會衆の理解力を開發するに努むれども、讚嘆驚異の情を養はざるなり。或る教會に於ては牧師は常に事業について説教す。彼は絶えず信徒を活動すべく激勵す、人若し唯何事かを爲しつゝ、あれば即ち人生の問題は解釋せられたる者の如くに想像せられ、祈念の爲の題目は顧みられざるに至る。情感の溝渠を深くするため何等の注意も與へられず、内心の泉は全く忘却せらる。人々は何を爲すべきかを教へらる。然れども効果ある活動の發する性格を造る爲めに寸毫の注意も加へられず。斯る教會は常に瘦するなり。人々は進め働けどの不斷の勸告の爲に疲

勞し終れり。器械の鏗鏘は常に彼等の耳朵に響く。而して教會の生命は涸渴して塵埃の野の如し。其處には變貌の山あらず。凡て街路にして樓上の室房なし。人々の心靈は全く貧弱になり了るなり。

又他の教會に於ては説教者は常に何事かを説明しつゝあり。彼は哲學的頭腦を有し、産業界の紛擾道德上の難問、教理の曖昧、精神上の懊惱に關して興味を感ず。彼は常に智識ある人々及び推理上の難題を面白がる少數の人々に對して説教す。彼は人の心情を計算の外に置けり。彼は毫も感情を刺激し若しくは養育することを爲さず。彼は謙遜感恩及び悅樂等の習風を作くる事業を避く。彼は人々が感嘆、希望、相愛によりて生活するものなることを知らざるなり。説教者を造るものは心情なり、而して教會を作るものも心情なり。情緒は生命に生長と光榮とを與ふ。飢ゑたる心情は即ち衰退せる教會を意味す。

されば吾人は二種の不具なる教會を有す。第一種の教會は、諸種の事務の論議せられ、又進捗せしめらるゝ事務所なり。第二種の教會は、種々の教理と組織を示され、又賞讃せらるゝ學校、教率なり。幸なるは其教會を神殿と化したる説教者なり。教會堂の窓飾に繪硝子の有無を問はず、藝術上儀式上の建築の有無を論せず、其教會の禮拜によりて心靈が自然に神に向ふに至る雰圍氣を造る説教者なり。雰圍氣は萬事なり。若し教會にして此雰圍氣を欠かば、多くの信徒が教會に詣るよりも寧ろ宅に留らんとするは怪しむべきにあらず。教會は其都邑に於て、他の制度と事業が與ふる能はざる何物かを與へざるべからず。教會の聖處には、心情が上天の世界より來ることを直ちに感得するに足る何物かを有せざるべからず、而して心情をして、是れ神の家に外ならず、是れは天の門なりと絶叫せしむるものなかるべからず。信徒が

教會の共同禮拜に列するよりも、自宅に於て讀書するは、更に多くの助を得ると云ふに及んでは、彼の性質不健全になれるか、若くは教會の禮拜に容易ならざる缺陷あるに由るなり。其會衆のうちに神を禮拜する氣分を作り、心靈は肅然として其創造者の現前に立つが如き雰圍氣を製するは、説教者の大業の樞要なる部分なり。

説教者は長き年代の間聖靈の嘉されし凡ての手段を用ゐずして、之を成就することを得ず。説教を以て共同禮拜の全部となすは、切掠を働く惡漢と云ふべし。讚美と祈禱とを一隅に押し込めて、之に「前置き」の銘を打ち、禮拜の主要なるものとせざるは、其爲すべきところを知らざるものなり。其結果として幾多の事を生ずる中に、有し得べき會衆をも有し得ざるに至るは必然なり。神を拜する本能は説教を聴く本能よりも更に深く根底を有し、更に廣く世人に普及せり。多くの智

性と心情は説教の命令には従はざれども、祈禱せよとの招きには應ずるなり。幼兒等は音樂を喜び樂み、而も説教者の高尚なる辯論のうち眠るなり。普通の無學の人民は、高遠なる議論の糸筋をたざるに足る智力上の修練を欠く、されど歌と祈禱とによりて神に其心を注ぎ出して慰藉と向上とを見るなり。教養ある基督信徒は、時事に關する論議又は勸告には興味を有せざれども、禮拜に於て其の行はるべきもの行はれしとき徳を建てられて家に歸るなり。實務に従事する人々は一週間の勤勞のために疲憊し、理窟づめの議論を考ふるを厭ふ。教會に於て正しく彼等を高め淨め且煩慮より休ましむるを得んには、教會に集ることを好むなり。吾人説教者は種々雜多の欲求願望を有する多方面の人性を牧せざるべからず、而して説教は神の恩寵が人の靈に達する多くの溝渠の一たるに過ぎず。

説教者が人々の敬虔なる性情を養ふによりて、其會衆の數を加ふるのみならず、又其使命を同化する能力を増すなり。説教をなすは相互的の業なり、與へて而して取る仕事なり、而も取ることは與ふることよりも更に肝要なるなり。説教は共同の生産物なり。説教者と聽衆との創作なり。説教の盛なると否とは語る舌と又聽く耳との双方に係る。若し聽者の精神が彼の使命を受くべく準備せられざるに於ては、如何ばかり熱誠にして有爲なる説教者といへども何の感動を與へ得べき。人々は週間の經驗により、主の日に於て準備なく精神上の教訓を聽かんとする如きことなし。混亂と懊惱とを心中より取り除かれざるべからず、狂亂と忿怒とを情念より抜き潔められざるべからず。近き日の罪惡の汚點は精神より洗ひ淨められざるべからず。人々は別々の野に働き、各人自己の特別なる業務の壁内に閉ぢ籠めらる、而し

て一週の初の日に當つて隔離せる境を脱し、凡て共に一處に會同するなり。不和の感情は調和せられ、彷徨せる思想は敬虔なる注意とならざるべからず。會衆は統一せられ、其心情は順良となり、響の聲に應ずる如くなるにあらずんば、説教は効果を奏することなからむ。音楽と祈禱とは不規則なる衝動を馴れしめ、又精神上の統一と調和とを造るための神の器具なり。敬虔なる氣分は説教の勝利に缺くべからざるものなり。敬虔は注意の母なり、人々は敬虔なる時に於て、喜んで天上に其ホームを有する真理に耳を傾くるなり。會衆は全く社會化するに従ひ、主の語も益速に傳はり且榮光を有すべし。説教者にして其説教を以て萬事了るが如く取扱はんとするは愚なる説教者と云ふべし。説教を實力以上に大いなるものと爲さんとして、却つて更に小さきものとなすなり。

説教に最大の効果あらしめんと希ふ説教者には、公共禮拜の順序に於て「前置き」などのあることなし。オルガンの演奏の始まれるより祝禱に至るまで、禮拜式は凡て神との高き嚴かなる交渉なり。基督信徒の會衆に於て第一に必要缺くべからざるものは、敬虔なる氣分なり。主を畏るゝは實に智慧の初なり、而して之を缺きては教會の禮拜は空虚となりて衰弱すべし。此氣分を造り又保つ爲、説教者たるものは沈黙の價值と儀式の肝要なる感化とを理解せざるべからず。説教者は禮拜式が妨げられず又害せられずして進行するを得るやうに形式上の境遇を安全ならしむべし。禮拜は遅く來る人々の不謹慎なる脚下に踏みつけらるべからず。接待人は聖書を読み又は讚美歌を歌ふ間、傍聽席の通路を上にと飛び歩くべからず。遅參せる輩は祈禱のあひだ其座席に進むを許すべからず。凡て遅刻せるものは教會の入

口に留まらしめ、禮拜中特に彼等のために具へたる中止の時に於て其座席に列らしむべし。多くの牧師が公共禮拜を行ふに當つて、其不注意の甚しき實に驚くべきものあり。彼等は永遠なる精神上の法則に暗くして、若くは顧みずして禮拜を墮落せしめ、心情を嚴肅にし引き上げしむる凡ての力を缺けるだら、いなきものたらしむ。

禮拜の儀式はサクラメンツ(聖奠)なり、見えざる恩寵を示す表徴なり。教役者にして往々是を恐るゝが如く見ゆるものあり。彼等は思へらく、無形式のみ全能者に喜ばるるに足ると。彼等は神の家に働くに自らの家庭に於けるが如くし、永遠に在したまふ至高至聖者に對して日常生活に慣用する無作法の語を以て語るを、形式と迷信とに抗する唯一の安全なる防禦策なりとせり。吾人も實に形式主義に陥らざるやう防衛に努む。形式主義は朽ち果つべき形式を墨守するものなれば

なり。されど形式も神の祝福し給へる所なり。正しく用ゐたらんには是亦教育と祝福の具なり。是れ常に心情の生命の保護者たるのみならず又養育者なり。形式なくんば生命は高度に於て自らを保持するを得ず。政府の威嚴を保持し、社會の諧調を維持するは、其形式によるなり。宗教は神意によりて形式と結婚せり。祈禱の時に姿勢を整ふるは瑣事にあらず。神の家に於て其行儀を格守するは品性を陶冶する一の要素なり。心情の生命は自らを發現する風儀及び様式に極めて忠實なるによりて温かく又眞實に保たるゝなり。教會に於て神を拜し、靈を養ふ形式は威儀と雅麗とを有するやうに行はるべきなり。無形式は敬虔を證明するものにあらず、又形式を無視するは向上せる精神状態の證據にもあらず。神の家にありては、禮拜者は自己の罪惡の感と、無限至聖なる神の御前に立つの意識とを、外部の行爲に現はす

は適當なることなり。氣分を作るに形式の缺くべからざるは、尙ほ煉瓦を製するに型の必要なるが如し。

敬虔なる氣分を造るには、禮拜の形式のうち公禱のごとく有効なるものあらず。記録によれば使徒の教會は、常に使徒等の教訓をうけ、交際をなし、パンを擘くこと、祈禱とを務めたり。ペンテコステの日に悔い改めたる人々は祈禱によりて自ら生氣を保てり。教會政治の事業が餘りに多く使徒等の力と時とを奪ひ始むるや、彼等は其重荷を他人々の肩に負擔せしめ、彼等は祈ること、道を傳ふること、を最上の務として、専心之に當るべきことを宣言せり。説教者は常に祈禱の人ならざるべからず。彼の靈は熱誠篤信ならざるべからず。若し彼の性質が敬虔ならずば、不斷刻苦の鍛練によりて其性質を服従せしむべし。晝夜教會の信仰的文學の傑作を繙き、其中にある心情を開發し、

信念を養ふに最も有力なる題を撰み、默想を凝すべし。タルソのソウロに關して語りて曰く「見よ彼は祈り居れり」と。是れ實に凡て成功ある説教の出發點なり。絶えず祈る人のみ能く力ある説教をなし得るなり。説教者は會衆を祈に導かざるべからず。説教者は會衆の爲に又會衆と共に祈るを要す。彼の祈禱は現實に於て説教なり。其祈禱は神の愛の發表の一部分たり。其祈禱は彼の説教の前置として設けたる華麗なる儀式的の序文にあらず、彼の靈の使命にして神に達する道を開くものなり。凡て公禱は是非とも人々に見らるるものなり。従つて其形式は擯斥若くは輕視を受くべきものにてあるべからず。其形式は會衆の敬虔なる感情を流露する助けとなるに足るものならざるべからず。いらだたいめ又は軋らしむる如き祈禱の風は、天の高きに人心を引上げしむる聖靈の力を滅殺するなり。説教者は無作法

下劣なる祈禱によりて教會の禮拜の全體を破壊するにあらん。祈禱は勢力の一の形なり、而して其力はだらしなき言句と漫然たる重複と流れ出づる喧しき叫びとによりて粉碎せらるべし。祈禱の精神は勿論正しからざるべからず。而して又其内容も形式も宜きに合せざるべからず。是を以て祈禱を準備し少くも會衆の爲に準備するは説教者の義務なり、而して彼の事業のうち祈禱にまさる危険にして困難なるものあらず。其苦心の實に慘憺たるが故に多くの者は殆んど萎縮して、或は全く口より出づるまゝに祈禱を捧げ、若くは一定の祈禱式を用ゐて其苦心より免かるゝを得る教派に入るなり。或人は祈禱を讀唱し、又は精神上の準備なく祈禱の體裁をなせる語句を並べ立つ。然れども一週又一週、一年又一年、説教者が自ら撰擇せる途に従ひて會衆を恩寵の玉座に導くは人性に容易ならざる税を課するなり。一定の

祈禱式を用ゆるものは常に精神よりも形式に信頼する誘惑に陥る、而して一定の祈禱式を顧みざる人も亦少からず危険にして陥穽せんとする誘惑に捕はる。出放題なる祈禱は自由の一形式にして、多くの罪惡を宿すなり。各日曜日自らその祈禱を組立つる特權を與へられたるものは、又一時の興に乗じて祈禱を製するの特許を有するは明かなりと云ふものあり。其結果は教會に於て多く醜汚にして聞くにたへざる混雜不恰好の祈禱をなすに至る。教養ある基督信徒が多く一定の祈禱式を用ゆる教會に逃げ走れるは、其牧師の粗雜にして卑俗なる祈禱に堪ふる能はざるがためなり。高雅なる男子と婦人とは祈禱の一言一句其趣味の神經を傷くるが如き牧師によりて恩寵の座に導かるべき者にあらず。祈禱は説教と同じく十分の準備をなさざるべからず、其一言一句の準備は必要にあらずとするも、第一に會衆の要求

と次に一般教會の要求とを默想し又熟慮考察して準備すべし。曾て準備せる説教は主の禁じたまふところなりとの迷信の行はれしことありき、斯くするは牧師が聽衆の前に立つ時に當つて牧師の頭腦と心情とに聖靈の働く所に干涉するゆゑなりと想はれたりき。此迷信の去れるは世の爲に賀すべきなり。聖靈は勉強嫌の説教者の輕卒にして狂熱なる口舌を通じてよりも、寧ろ長く忍べる努力を以て準備せられたる説教を通じて、其意志を行ふ好機會を有することは經驗の證明せるところなり。尙他の迷信あり、教會は未だ全く之より脱せず。即ち彼等は過ぎ行く瞬間にも其導きを與へらるべく全く聖靈に信頼せば、神意によりて更に眞率に更に近く祈るを得べしと信するなり。此二種の迷信は相同じ。効果ある説教は概して定見なき心、若くは瞬時の感情によりて爲し得べきものにあらず。又會衆は進路を知らずし



て旅立するが如き輩によりて神の玉座に導かるべきものにあらず。此處其處に躓き時々刻々同じ事を繰返し、正しき語の出で來らずして誤れる形容詞若くは副詞を用ゆるなどは、全能者にとりては或は些細の事なるべけんも、人にとりては決して小事にあらず。説教者は聽く人々の爲に公に祈禱する以上は、神の靈の入り來るため人々の心を最も良く開くに足る言語を用ゆべき義務あるなり。

祈禱の内容も亦注意して考へざるべからず。パウロは祈禱の精神及び態度に關し、又基督教社會の禮拜のうちに一の地位を占むべき祈禱に關し細心の注意を拂ひたりき。彼は祈禱に與行と間口とあらんことを望みたりき。祈禱には管に社會の下層にある人々のみならず、又上層にある人々をも包括せられたりき。上にありて權を執るもの及び王侯は、基督教信仰に同情を有せざりしと雖も祈禱のうちに忘却

せられざりき。凡ての種類及び状態にあるもの悉く記憶せられたりき。萬人の救はれんことは神の望みたまふところなればなり。教會に於ける祈禱は一地方の會衆のみならず、又天下の教會のみならず、廣く全世界を包括すべき者なり。祈禱には與行あり間口あり深さあり。其長さ、廣さ、高さは同じかるべきものなりき。説教者は何れも未だ此使徒の理想に近く生活せりと云ふべからず。公禱は屢其範圍を狭くし、また教會の祈禱が有すべき標準よりも低く引下げられたり。説教者が其祈禱を作成するに不注意なるは、自己の性情の發達を阻害するのみならず、又教會員の精神上の同情と感受性の發育を妨ぐるに至るべし。若し彼の祈禱に於て心中に宇内の教會と萬國民諸人種とを提げたらんには、その教會も亦同じく彼の如くに爲すならむ。説教者の自ら夢想するよりも更に多くの事物は彼の祈禱によりて成し遂げら

る。基督教史中には祈禱が説教を追ひ退けたる時代ありき。現代は説教が祈禱を追ひ退くるに至るべき危険の教會あり。説教も祈禱も共に神の立てたまひしところなり、神の合せたまひしもの説教者之を離すべからず。

音楽も亦基督教の誇たる特殊の氣質を造くるに用ゐるを得る勢力の一種たり。歌の賜は原始的のものなり。人は元來音楽的なり。神命に従ひて人は歌ふ動物なり。人類は最初より音楽を愛好せり。各民族史の曙光には歌を歌ふラメクあり、琴と笛とを執れるユバルあり。ユダヤ人の教會は此自然的の嗜好に乘じ、之を神殿の禮拜、會堂及び家庭に使用せり。イエス殺さるゝ夕に當り、彼及び彼の弟子等は其國民の傳習を忠實に守りて詩篇を吟唱したりき。吾等の主は歌ひつゝ、ゲツセマネの樹陰に赴けり。ユダヤ人の教會が爲せるところ可なり。

り、而して基督教會の爲せるところ更に可なり。天使平和と善意との歌を歌ひ、而してイエス其の天來の福音を以て人の心を成熟せるまでは、音楽が如何に多く人の靈のうちに潜めるかを決して解せざりしなり。音楽は吾等の知るところによれば基督教會の娘なりと稱するを得べし。基督教は人心を開放して以て自ら音楽の新しき發展を見るに至らしめたり。曩にブリニーが幕を上げて第一世紀の會衆の禮拜の舞臺を觀せしめしとき、吾等は彼等が歌ひつゝありしを見る。基督教會はペンテコステの日よりのち常に歌ひつゝありき。聖靈の新しきパプテスマを受くるごとに常に歌は溢れて洪水の如く打寄せたり。ローラーズの徒は其吟唱の聲を以て全英國に満たし、ルーテルに従ふ輩は其讚詠の歌を以てカトリック教會僧侶の心膽を寒からしめたり。ウエスレー派の人々は其吟唱によりて基督教史に新時代の曙

光の輝き初めたることを聲明せり。使徒の時代より最近の教會復興に至るまで、神の靈大に活動するときには人々も亦自ら躍然として歌ひしは事實なり。

是れ音樂が心情の言語なるがゆゑなり。歌は感情の自然的談話なり。心情を鼓舞すれば即ち歌ふ。歌ふが爲に更に深く自ら鼓舞せらる。音樂は音に感情を表白するのみならず又之を深くするなり。歌の表現するところの氣分は其歌を歌ふによりて強くせられ又永續せしむ。人は唯自己の爲に歌ふのみならず、又他人の爲に歌ふ。彼は其氣分を聴衆に傳ふるなり。男女打寄りて共に歌ふに當りては、其歌ふところの氣分を互に傳へて感情の交際は成立し、相互の精神は美はしき一致に達するなり。祈禱によりて人心は嚴肅になり高く擧げらるゝ如く、唱歌によりて人心は社會化し潤達になるなり。音樂は同情

心を擴張し社會的性情を培養す。自己中心と偏狹排他の感覺は旋律の支配の下に自ら融け去るなり。能く調和せる音調に觸れては雑多の心意も情念も共に融和して會衆皆一心となるなり。音樂は世界的言語なり。いづれの心も之を了解し得。人假令其身はチャールスラムの如く音調に適當せざるものあるも、情感の上に於ては何人も音樂に不快を感ずるものなし。音樂のうちには何物か天來のものあり、之に對しては俗情慾念自ら霧消するを覺えしむ。最も野卑なる人間も音樂の清泉に浸されたるのちは其鄙吝の情の薄くなれるを感すべし。音調の流は區別の線を除き、慘苦の泉を涸らし、隔離の壁を破り、會衆を宏大にして豊饒なる地に到らしむ。音樂は之を正しく用ふれば説教者が成就せんとする事業を爲すに足る。音樂は友情を開發し、同胞主義を建設するなり。

凡ての神聖なる事物と同じく音楽も危険なるものなり。多くの教會は音楽問題と稱する難題を有す。時には音楽紛議あり。多くの説教者は其心腸を寸断するが如き教會區内の不和が音楽より來れることを聞く也。音楽は孔雀に化して唯虚飾の爲に存することあり。神の家に於て虚飾は禁物なり。音楽若し虚飾の爲に用ゐらるゝに及んでは即ち徳を建つる天使たるに非ずして之を破壊する悪魔となるべし。是故に説教者たるものは教會音楽の指導者たる人物の品格と精神とに十分の注意を拂ふを要す。音楽指導者は基督信徒たらざるべからず。彼は基督に選任せられたる教役者なり、基督の靈を有せざるべからず。情緒が全般を支配するところの禮拜を指導する人は、思想が主要なる部分を占むる禮拜を司るものと、同じく天來のパブラスマを受くる必要あり。教會は其講壇に基督の弟子たることを發表せざ

る人を立たしむべからざる如く、教會の音楽を基督信徒にあらざる人の掌中に托するを慎むべし。異教徒と基督信徒と如何にして基督の殿に於て共に働くことを得んや。此點に關し甚しく不明にして、斯る許すべからざる誤謬を意に介せざる教會は實に二三に止らざるなり。音楽の指導を基督信徒たる人の掌中に托すると共に、大に意を用ふべきは音楽演奏の形式上の撰擇に關することなり。音楽禮拜の一部を獨唱、二部合唱、三四人、若くは八人、或は多數の唱歌隊によりて奏すべからざるの理由あることなし。獨唱は合唱の爲し能はざるところを爲し得べく、四部合唱は獨唱又は多數の合唱の爲し能はざるところを爲し得るなり。讚美若くは感謝の音楽上の傑作を解釋するに、其の手法一ならずと雖も主は即ち同じ、活用の手段種々あれども萬物のうちに働きたまふ神は同じ。固く主張すべき一事は、會衆が禮拜に於て正

しく己が地位を占むるを許されんことなり。凡ての人々は歌ふべき機会を與へられざるべからず。救はれたるもの、全群は讚美を發せざるべからず。禮拜は一階級の獨占するところとなるべからず。凡てのクリスチャンは神の祭司なり。會衆を沈黙せしむるは聖靈を消すなり。若し教會が口を噤むで沈黙することを好まば、即ち其生命の衰殘の狀にあることを示すなり。沈黙の教會は聲を發して歌ふものとなるやう訓練せらるゝを要す。能く歌ふ教會のみ乃ち説教を衷情より謹聽し、又勇んで基督教的奉仕に従ふなり。會衆の歌の拙き場合に於て、吾人の執るべき手段は讚美歌を端折り、又説教を伸長することにあらずして、更に多くの歌を歌ふ機会を増すことなり。若し教會が歌ふことを好まずば、其は情操の涸渇せるによるなり。新しき生命は講壇に思想の増加せるによりて傳へらるるものにあらず、却て聽衆席

にあるものが其心情を自由に働かすによるなり。パウロが基督信徒に眠より覺めよ死より起てよと警告せるとき、又彼等に奨めて其心情を主の心と共鳴し、常にイエスキリストの名に於て萬事を神に感謝し、詩と歌と靈に感じて作れる賦ともて互に語るをなすべしと奨勵したりき。されば讚美歌を歌ふことは、遲參者の出で揃ふまで恣にせしむべく用ゐらるゝ説教の豫備にあらず、又は嫉妬の眼を以て斷えず警戒を加ふべきところの邪魔物にあらずして、實に説教の一部なり、神の至善と其久しく惱み給ふ慈愛との公けの發表なり。讚美は實に恩寵の一手段にして、人を助けて、余は聖徒の交際を信すと公言せしむる者なり。説教者が其教會を基督の態度及び性情に近づかしめ、而して非基督的氣質に抗して擁護せんと欲せば、教會員の舌に讚美の歌を絶えざらしむるやう訓練すべし。多くの教役者が絶えず又組織的に會員

を鼓舞して禮拜せしめんには、更に多數なる、更に反應ある會衆を有するに至るべきなり。

聖書の朗讀は氣分を造り且つ向上せしむるために神の立てたまへる手段なり。祈禱及び讚美歌と同じく是亦説教の一形式なり。此は現今吾人が行ふ説教の前身なり。ユダヤ史の數世紀間を通じ、聖書の朗讀は國民の教育と鼓吹との要素なりき。エルサレム會議に於てヤコブは説教と朗讀とを同一視して曰く「古より安息日ごとに會堂にてモーセの書を読むが故に之を説く者各邑にあれば也」と。公けの聖書朗讀は、會衆が其席を見出しつゝある際に急ぎ行ふところの説教豫備にあらずして、説教禮拜の重要缺くべからざるものたり、乃ち説教の一形式と見るべきにあらずや。實に怪むべきは、かの聖書記者の獨特のインスピレーションを信する人々が、不熱不冷の調子を以て聖書を読

み、己の宣ふる言葉を榮譽の地位に置き、自己の創造せる莊嚴なる宮殿に到る小路として預言者使徒及び主の語りたまへる語を用ゆることなり。神は往古種々なる場合に様々なる方式を以て預言者に語りたまひ、後の日に於て彼の子によりて吾等に告げたまひしは果して眞實なりとせば、説教者が聖書を読むことを甚しく粗略にし、若くは彼の説教の沃野の外に人々を隔離する垣なるかの如くに急讀するは、甚だ好ましからざること、云はざるべからず。而して又パウロが宣べし如く「聖書はみな神の默示にして教誨と督責また人をして道に歸せしめ又義を學ばしむるに益あり。是れ神の人の完全を得て諸の善事を行ふに缺なからん爲なる」こと果して事實なりとせば、説教者にとりて聖書を其會衆の爲に講讀するに優れる要務あるべけんや。

現今教會に於て聖書講讀を大に奨勵せざるべからざる理由は一に

して足らず。吾人は劇忙なる時代に生活す、而して生活の壓迫は實に甚し。人々は毎日又毎週幾多の劇務の爲に逐ひ廻はさる、而して此逼迫せる躁急のために、前代に於て廣く世に行はれたりし風習の廢滅に歸しつゝあるもの少からず。家族禮拜の如きも前代の如く基督信徒の家庭一般に行はれず、而して聖書は、多くの人々のうちに新聞雜誌の代るところとなれり。説教者たるもの宜しく聖書研究の餘裕なき人々に對して聖書を講讀すべきなり。現存せる人々の一生、聖書は實に激烈にして且擾亂せる論争の目的物なりき。聖書インスピレーション説及び聖書無謬説等の古き説は立證するを得ざるに至り、而して新き概念は未だ全く一般の人心に徹せず。信徒は多く聖書の起源及び典據に關する批評的理論の紛々たるに惑へり、而して多くの説教者も此惑より脱することを得ざりき。抑も聖書批評の運動は避くべから

ざるものにして、憂ふべきものにあらず、寧ろ歡ぶべきものなり。誠意ある學者の一團は熱心と忠實とを以て、聖書の記者及び其經典の成立等に關する事實を確めんと努めたり。努力は空しからず夥しく實質的の價值ある結果を收めたり。然れども凡て斯る運動には多くの人間の弱點と瑕疵とを伴ふ。唯斬新なりと云ふほかは何等の見るところなき幾多の理論は提供せられたり、而して建設の價值なき結論は廣く傳播せられたり。高等批評の名を以て公にせられたるもの、大部分は枯草なり木片なり切株なり。而して吾人は今日學者の荒涼たる推論に驚くが如く、他日同じく笑を含める驚を以て觀らるべきなり。一時喇叭を以て吹聽せられ叫喚を以て歡迎せられたる批評説も、皆相續いで倒れたり。而して現今如何なる説勢力を占め居るかを問はず。やがて前者を葬りたるもの、足は又之をも葬らんとして門前に待て

るを見るなり。凡そ思索する人々は是非聖書に關する何かの學說を抱くべき必要あり。然れども聖書は聖書に關する孰れの定説よりも更に大なるものなることを記憶するを要す。若き説教者は最近の學說を以て心を充たし、往々聖書に關する思想を以て、聖書よりも重大視するの誤謬に陥ることなしとせず。假説及び想像を聖書の上に堆積して神の命じたまへる事業を行ふを妨ぐるに至るものあり。聖書の記述組織等に關する見解は兎もあれ、聖書を會衆に講讀することを怠るなかれ。聖書批評の最後の語は未だ書かれざるなり。最近學者の結論の多くは單に試験的のものに過ぎずして、諸君の頭髮の半白を帯ぶるところまでには尙數回の訂正を見るべきなり。註釋を施さずして聖書を會衆に讀み聽かすべし。諸君の憶說を以て其音樂の耳を塞ぐことなかれ。オルガンの音調を響かしめよ、聽くべき耳あるものは聽

くべきなり。諸君の推測を以て其光明を蔽ふとなかれ、解釋の爲に暗くせらるゝことなく自ら光輝あらしめよ。諸君の想像を以て其火を消すことなかれ。炎熱を發射して、幾多の心を融かすを得せしめよ。諸君の浮誇若くは妄想のうちに包みて以て其銳刃を鈍くするとなかれ。銳利ならしめよ、二十世紀の今日と雖も、神の語は生きて且つ能力あり。兩刃の劔よりも銳利にして氣と魂を刺し割つものなるを證するを得べきなり。

汝はモーセ五書の材料、イザヤ書記者の數、詩篇の記者、福音書中の記入せる句節等に關して如何なる說を抱くかは別問題として、事實は依然たり、聖書は書中の書なり。而してイエスキリストに在る信仰によりて救拯に至る智慧を與ふるものなり。是れ實に世界の勢力なり。實き説教者は之を巧に用ゆ。彼は聖書を讀むによりて以て彼の會衆



の徳を建つるを得るなり。彼若し預言者と使徒の書を読む道を解せば、彼の説教に注意を拂ふこと少き人々も教會に來るに至るべし。彼の會衆にして若し聖書に浸されなば、宗教上の刺激に對して絶えず鋭敏になり、宗教上の眞理を同化する能力に於て成長するならむ。人々は聖書を多く聽けば益多く之を聽かんことを欲するに至るべし。人の説教に興味を有すること乏しきは聖書に曉通するが故にあらずして、寧ろ聖書に暗きが爲なり。最も切實なる評價力を以て説教者の述べるところに耳を傾くる男女となるものは、幼時より聖書を以て訓育せられたる小兒なり。ルストラに於て巡回説教者パウロの最も注意を惹ける青年は幼より聖書を知れるものなりき。若し會衆が渴するが如く諸君の説教を慕はんことを望まば宜しく彼等に向つて聖書を読むべし。聖書には説教者の述べるところを會得し又説教者の信頼

するに足る能力を養ふ食料を含めり。聖書は聲の書なり、耳を貫き心を刺す不可思議なる聲にして、其聲の響きは人の靈のうちに深く眠れる力を喚起し、魔力ある音調を以て人の精神を襲ふ。聖書は人の最高處と最深處とを發見す。聖書は一人の支配し能ふよりも更に廣濶なる思想及び感情の全音階を包括す。聖書は一の心靈の所有し得るよりも更に多方面なる智慧を與ふ。聖書は諸君が説教に於て達するを得ざるところの人々にも達すべし。聖書は氣分を創造し、氣質を陶冶す、其は全世界に於ける如何なる書も及ぶどころにあらず。聖書は其うちに説教が見事なる發育をなすべき一種の氣候を生産す。諸君自身の爲に考ふるも諸君は心と情と靈とを盡して聖書を諸君の會衆に講讀すべし。人が立ちて教を説くことを最も好むは、かの聖書にある聖徒及び英傑の衷心に燃ゆる靈に充たされたる時にあり。彼が「我説

教せずば禍なるかなと絶叫するは實に此時にあり。聖書は教職及び信徒の徳を建つ。其語は靈なり、生命なり。聖書の語は人心を鼓舞し、激勵し、遍照し、感動す。其語には手あり足あり、其語は奇蹟を行ふ。聖書の語を飲みたるものは、獅子の口を拘するを得べく、又猛火を消すことを得べし。

是が故に諸君宜しく聖書の讀者となることを努むべし。眼中此目的を抱きて自ら鍛練すべきなり。汝の音聲を訓練して、預言者の感じたる情操と使徒の觀たる幻象を發表するに足る屈伸自由、達辯縱横なるものたらしめよ。毎週聖書朗讀を實習すべし。完全は唯實習より來る。聖書朗讀の技術は美はしく然かも困難なる技術なり。何人も諧音又は抑揚或は調音又は高調等を用ゐて、人々の慰樂の爲に記述せられし文章を描出する方法を、眠り居て了得せるものあらず。卑陋な

る聖書朗讀は容すべからず。人各才華燦爛せる説教者となり得るものにあらず、されど何人も善き聖書朗讀者と爲り得べし。假令彼自ら大説教を創造するを得ずとも、往時聖者の述べたりし説教を雅致と力を以て朗讀し得べし。何人も聖書朗讀の試験を通過せずんば神學校を卒業するを得ず、且つ巧なる聖書朗讀者たるにあらずんば基督教役者として按手禮を受くることを得ざる時節の到來せんことを望む。此點を蔑視するものは唯に精神上の遲鈍なるのみならず、又實に道德上の罪人なり。

されば會衆に對して聖書を心地よく朗讀することを決心すべし。新約書と共に舊約書を読み、福音書に劣らず書簡を読むべし。聖書には現代人の注意を惹くに足るもの、此處彼處に斷片の散在するに過ぎずと云はしむるなかれ。聖書全體に對して心中尊敬の念に充たしめよ。

その歴史と詩歌、其傳記と書簡、其説教と預言とを讀め。教會各種の集會に於て、禮拜に於て、祈禱會に於て、聖書學校及び傳道會社に於て之を讀むべし。諸君の教會を聖書の精神のうちに浸すべし。祈禱の人の如く之を讀め。エホバの預言者の如く之を讀め。其音信に心服せる戀人の如く之を讀め、然らば諸君の唇に聖語の上るごとに新しき光の發射するものあらむ。神は屢聖書を通じて語りたまへり、而して又屢語りたまはむ。大説教者は聖書によりて生活す。彼等の至上の喜悅は聖書を人々に與ふるにあり。論文家、講演者及び諸種の教導的冒險者は、基督教講壇に立ちて一時人心を奮激せしむるを得べきも、時世は長く瞞着せらるべきにあらす。基督教會は顧みて其講壇上の勇將を數ふるに當り、只だ聖書に於て偉大なりし人物の外は、不朽の人物の輝ける國體に加ふるを許すべきものなし。

聖書朗讀、讚美、祈禱によりて始まり又發展せる事業は、説教に由りて進捗し完成するなり。イエスの教會は敬虔にして感恩の情に富み、同情深く、親切に、元氣に充ち、且つ慈愛溢るゝものたるべし。而して斯くあらしむるは即ち説教者の任務なり。氣分の發達に於ても、吾人の記せざるべからざるは、神の宇宙には一事として偶發するものなきとなり。説教者は農夫の如く法則の神の下に働くものにして、穀類芋等を生産せしむる従順と努力とは同じく靈の果を收むるに必要なり。天の樂園の美花は凡て他の花の如く、喜んで必要なる勞力を用ゆるものゝ掌中に入るなり。天の樹木は地上の樹木と同じく、培養の勞を積まざるべからず。若し教會が美花を開かず又馥郁たる香氣を發せずんば、主として心靈の園丁が培養の道に暗きか又は怠慢なるかの致すところなり。天の種をして花を開き果を結ぶに至らしむの氣候状態を

造るは彼等の責任なり。説教者の述ぶるところ年々歳々空しく地に委するの理由あることなし。

されば氣分を養成するは説教者の第一に務むべきところなり。彼の最初の事業は教會員を導きて基督信徒風の心意を有せしむるにあり。人々が何を信仰するを喜ぶかは、多く彼等の氣分に由りて定まる。説教者は往々危機に際して之を忘る。教會の心狀が敦厚ならざるに當りては、其教會に新しき解釋又は新しき教理を紹介する方法を慎むべし。或る教會の如きは貝殻のうちに包まる。新しき説教者は一見して之を觀るなり。彼は其教會の眼光を開くに足ると思へる特殊の教理に關して論理的なる鋭き議論を列ね重ねて述ぶ。然れども寧ろ彼は忍んで各人の信する古き眞理を説明して一種の雰圍氣を製造し、其快き感化により貝殻をして自ら開くるに至らしむべきなり。人は

議論的説教によりて信仰に入るものにあらずして、其心意を漸次變化せしむるによりて新しき眞理を歡待するに至るなり。不適當なる、若くは誤謬なる思想を脱却し得るは、心意の勢力又は才氣燦爛たる論議の爲にあらずして、思考の全局を高め、且つ心情の生命の溫度を騰らしむるによるなり。教會は正しき氣分を有するときに於てのみ、其信すべきところを信するなるべし。

若し説教者にして、同情的なる、又は社會的なる氣質を造らむと欲せば彼の用語に注意すべし。彼は出來得る限り凡ての術語及び抽象的言語を避くべし。冷淡なる又は不慣なる言語は直ちに之を廢し、心情の熟知するところのみを保留すべし。専門家の用語及び遠國に發生せる言語は街上、學校及び家庭に於て用ゐらるゝ卑近の語に變じて用ゆべし。人々に接近せんには、説教者は其の生國の言語を以て説かさ